

名古屋芸術大学・大学院 後援会報

第58号 2015年3月31日発行

CONTENTS

1	目次	22	第25回生涯学習大学公開講座報告
	せせらぎ合唱団・壁の華 会員募集	23	音楽学部 第42回卒業演奏会報告
2	卒業生に贈る言葉		大学院音楽研究科 第17回修了演奏会報告
	後援会へのお誘い(委員募集)		美術学部 第42回卒業制作展報告
3	名古屋芸術大学近況報告		大学院美術研究科 第19回修了制作展報告
10	2014年度デザイン「Review」展のご案内		大学院デザイン研究科 修了制作展報告
12	大学へのお問合せ先一覧	24	2014年度ブライトン大学賞
13	学生部報告	25	親の想い・子の想い
14	在学生及び卒業生の	26	国際交流留学レポート
	展覧会・各種コンクール等受賞結果	27	後援会研修旅行報告
16	芸大祭報告	28	同窓会総会・卒業生懇親会報告
17	私が就職内定をもらうまで	29	名古屋芸術大学・大学院後援会会則
19	後援会補助公開講座実施報告	30	木祖セミナーハウスのご紹介
21	人間発達学部ヨーロッパ教育研修報告		編集後記

「せせらぎ合唱団」団員募集

この「せせらぎ合唱団」は、名古屋芸術大学・大学院後援会の有志により「歌を歌って楽しもう」と15年前から活動している合唱サークルです。毎月1回、芸術大学の江端智哉先生と山田正文先生と交代で懇切丁寧な御指導をいただき、練習日に集まっています。今年入学された父兄の皆様には5月の定期総会に案内させて頂きましたが、まだご存知ない方々にもぜひとも知っていただきたく、この会員の募集をします。

これまで、大学の学園祭の会期中に演奏会を開催したこともあります。次回の演奏会がもてるように練習曲を重ねていきたいと思っています。初めての方でもまず発声から始めて、楽しく練習できますので大丈夫です。毎月第3土曜日の午後1時30分から3時まで、音楽学部の4号館の3階のオペラ教室に足を運んでください。どなたでも入会できます。団員皆さんで待っています。



〈問い合わせ先〉

会長 長江政則
〒480-1214 瀬戸市上品野町927
電話：0561-41-1655 携帯：080-3621-7706
副会長 千石智子
〒488-0863 尾張旭市城前町上大道4084-6
電話：0561-53-4222 携帯：090-8469-4324

絵画グループ 壁の華 会員募集

この「壁の華」は、今から25年前に元後援会長の黒田勝氏を中心に仲間が集まり結成されました。名古屋芸術大学・大学院後援会の有志による「絵を描いて楽しもう」と、活動を続けている絵画グループであります。毎回、大学の先生方により懇切丁寧なご指導を頂き、年1回、名古屋市民ギャラリーで展覧会を行い、会員の作品を発表しております。また、研修会、鑑賞会、スケッチ旅行等、楽しい事が多くあります。この会には後援会に関係のある方ならどなたでも入会して頂けます。入会すれば絵画を通じて、先生方や会員同士の交流が深まり、生活が楽しく、人生に潤いが生まれて参ります。会員一同、皆様のご入会をお勧め致します。



【活動状況】

1. 例会 毎月第三日曜日 午後2時～4時
西キャンパス
2. グループ展 毎年5月上旬(1週間)
名古屋市民ギャラリー
3. スケッチ会 10月予定
4. 鑑賞会

〈問い合わせ先〉

会長 宇佐見 誠也
〒489-0874 瀬戸市幡野町508
電話：0561-21-4567 携帯：090-7305-8205
運営委員長 森部 みや子
〒492-8075 稲沢市下津町西下町58
電話：0587-32-2814 携帯：090-1825-1671

卒業生に贈る言葉



後援会長
平井 友明

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

また保護者の皆様にもお慶びを申し上げますとともに、後援会に対するご支援ご協力に心より感謝申し上げます。これからは社会人としての責任を自覚すると共に、人とのつながりを大切にして、それぞれの人生を歩んで下さい。

皆様が生まれた頃に経済バブルが崩壊し、長期間デフレ状態が続いてきました。現在、アベノミクスなどの経済対策によりようやく景気もどりつつあります。また、少子高齢化も進んでいる今、社会構造の変化が求められており、皆様のような若い力が必要とされています。困難なことに当たることがあるかもしれませんが、協力して立ち向かって下さい。

後援会の活動を通して今年は多数の演奏会、展覧会を見させていただきました。なかでも名古屋自由学園60周年を記念して12月4日に行われたベートーベンの第9交響曲の演奏会では、在校生、卒業生、先生、保護者が一同に会し、迫力満点の演奏で、名古屋芸術大学における団結力の強さを感じました。

今後も後援会活動にご支援ご協力をお願い致します。



学長
竹本 義明

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本学は私立総合芸術系大学として「感性と創造力に富んだ人材の育成を目標とし、芸術文化ならびに人間発達の創造発展に寄与する人材の養成を目的とする」としています。卒業生にとって大学に入学してから、卒業後の目標に向かって在学中いろいろ努力され、特に就職について悩まれたことと思います。景気回復により、2015年春の大学卒業生の就職内定率は80.3%で2011年から大きく改善していますが、本学の就職状況は、大学が発行している「DATA BOOK 2014」に2012年度の全学部進学状況が記載してあり、それによると教職関係13%、福祉関係8%、音楽講師3%、音楽家・作家活動9%、フリーランス3%、一般企業31%、進学11%、その他22%となっています。また、昨年度の「週間東洋経済 NAGOYA 2014 地方公務員就職ランキング(名古屋の大学)」によれば、本学卒業生の小学校教員への就職は22名で就職率8.0%順位が6位、幼稚園教員への就職は25名で9.1%順位が2位となっており、この分野での存在感を示しています。最近、本学では進学及び一般企業への進路が増加していますが、安定した教職、福祉関係が21%、音楽家・作家活動、フリーランス、音楽講師が15%となっており、これらは芸術系大学の専攻を活かした進路と言える

と思います。デザイン学部卒業生の進路である一般企業の中にも感性や創造力を求める声が大きくなり、他学部卒業生も就職する割合が高まり、本学卒業生の能力が高く社会で評価されています。また、一般企業に就職しても専攻の分野の創作活動を継続する卒業生も多く、中には自ら起業するケースが見受けられ、教員については数年の講師経験を積んで専任となるケースもあります。大学では学生支援課において、芸術系学部、教育系学部という狭義な考えに止まらず、幅広く卒業後の進路を考え在学及び卒業生に対する就職支援に取り組んでおり、特に各種講座への参加や就職相談について積極的に利用して頂きたいと考えています。

後援会へのお誘い(委員募集)

日頃から後援会へのご理解、ご協力ありがとうございます。

皆様から頂いている後援会費は、公開講座等の補助、また芸大祭やクラブ活動の補助、学生自治会、国際交流、謝恩会補助や就職活動補助など様々な活動の補助として役立てられています。

また私ども役員も自分の子供だけでなく同じ親として、子供たちに関わることができ、とても幸せです。

委員といっても常にかかわっているわけではなく、年に4回程度の委員会などありますが、大変なことは一切無く、皆さんとの交流など楽しいことばかりです。

学校に行く楽しみもあります、何十年も前の学生生活を懐かしみつつ、子供の生活を身近に感じ、また学長先生から直接学校の方針を聞いたり学校に出向かないとわからないこともあります。

まずは定期総会に出て学校の方針や担当の先生から直接子供の様子を聞き、学内を見学してみませんか？もちろん随時委員も募集しています。

【委員を募集しています】

お問い合わせは名古屋芸術大学事務局の川村幸義までご連絡してください。

電話：0568-24-0315(内線385番)

メールアドレス：kouenkai@nua.ac.jp

副会長 飯田康子



名古屋芸術大学近況報告

音楽学部

《演奏学科》

声楽コース

声楽コースでは、主な研究課題として歌曲研究とオペラ研究を設定しています。そして、その研究成果の発表の場として本年度も「歌曲のタベ」と「オペラ公演」を設定しました。

「歌曲のタベ」は、2月3日(火)に熱田区にある「熱田文化小劇場」で行われました。当日は、オーディションで選ばれた2年生から4年生までの学生と特別出演の大学院生達が、多くの観客の前で、日々の研究、練習の成果をしっかりと発揮し、多くの温かい拍手を頂きました。手前味噌になりますが、結構レベルの高い演奏会になったと思います。ですから、もっと多くの観衆を集める努力をするべきだったと反省しております。

「オペラ公演」は、2月27日(金)、28日(土)に千種区の「名古屋市千種文化小劇場(ちくさ座)」で第37回名古屋芸術大学オペラ公演として、今日本で注目度の高い作曲家木下牧子の「不思議の国のアリス」を上演します。このオペラは、主役のアリスを始として色んなキャラクターの登場人物が多く出演する、大人も子供も楽しめるオペラです。

総監督、演出の澤脇教授のもと、キャスト、スタッフ、オーケストラ、衣装、小道具等全て学生達の手による「学生オペラ」です。昨年の7月のキャスト決めから始まって、約半年間の汗と努力の結晶とも言えるこのオペラが、満員の観客からの温かい拍手に包まれる素晴らしい公演になることを期待しています。

声楽コース 教授 土佐 誠

弦管打コース

2014年9月25日に日本特殊陶業市民会館フォレストホール(名古屋市民会館大ホール)にて、ウィンドオーケストラ第33回定期演奏会が行われました。

昨年と同じく、竹内雅一、ヤン・ヴァン デル ロースト両教授による指揮のもと、8曲が演奏されました。今回のプログラムは、サクソフォーンの生みの親アドルフ・サククス生誕200年を記念して、サクソフォーンをフューチャーしたものが中心となっており、ソリストに本学教員の三日月孝、桜井牧男、滝上典彦氏と卒業生の中山順次氏総勢4名のサクソフォーン奏者を迎え、サクソフォーン4重奏とコンサートバンドのための「スポットライト」(トーマス・ドス作曲)等、大盛況の本番となりました。昨年同様、今回のプログラム中の作品を収めた名古屋芸術大学ウィンドオーケストラ演奏の「SECOND TO NONE」がデ・ハスケ社より絶賛発売中です。是非、お聴き下さい!

12月4日には名古屋芸術大学オーケストラ第32回定期演奏会が行われました。今回は名古屋自由学院創立60周年という節目の年であり、記念事業を兼ねての演奏会となりました。ソリストに国内外で活躍する本学卒業生を迎え、本学古谷誠一教授指揮でベートーヴェンの

「第九」を演奏しましたが、当日は入場をお断りするほどの超満員で、記念事業にふさわしい本番となりました。

12月16、18日の両日に第33回室内楽のタベが行われました。16日は熱田文化小劇場にてオーディションで選ばれた12団体が、また18日は本学3号館ホールで授業発表となる5グループが日ごろ培った技術の成果を披露していました。

年が変わり2015年2月14日江南市民文化会館大ホールにて、アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン第16回定期演奏会が行われました。今年も本学講師小野川昭博、客員教授ヤン・ヴァン デル ロースト両指揮者にゲストコメンテーター鈴木英史氏を迎えての本番となりました。今年は江南高校との合同演奏という新たな試みがあり、学生作品を含む9曲が披露されました。演奏を聴きにきた観客からは、惜しめない盛大な拍手が送られていました。

弦管打コース 准教授 依田嘉明

ピアノコース

毎年、数多くの演奏会を開いていますピアノコース。後期も、名古屋の主要ホールで学生たちが演奏をしました。

10月28日(火)「第22回 ピアノのタベ」電気文化会館ザコンサートホール。オーディションで選ばれた、ピアノデュオ10組の学生たち(1年~4年)に、ソロ4名(3年~4年)の学生を加え、[ショパン：ロンド ハ長調 Op.73、ストラヴィンスキー：ペトルーシュカからの3楽章「Ⅲ謝肉祭」、リスト：超絶技巧練習曲「タベの調べ」他]が演奏され、会場から多くの拍手を送られていました。11月20日(木)「第37回 定期演奏会」がしらかわホール。ピアノコースから、オーディションで選出された5名(3年~4年)が出演。[プロコフィエフ：ソナタ6番 終楽章、リスト：「ベネツィアとナポリ」からタランテラ]など、他コースの学生とともに、好演しました。

年が変わり、1月28日(水)29日(木)の二日にわたり、アレクサンダー・セメッキ教授によるレッスンが4号館L211で行われ、ピアノコース4年生全員が受講しています。2月12日(木)本学客員教授・ウィーン国立音楽大学教授マインハルト・プリンツ先生によるピアノコンサートが4号館多目的ホールで開かれました。[ハイドン：ソナタ変ホ長調 Hob.49、シューベルト：さすらい人幻想曲、リスト=シューベルト：ウィーンの夜会No.9、マーラー：アダージェット(交響曲第5番)、ラヴェル：ラ・ヴァルス]先生の幅広いレパートリーから、魅力ある楽曲が選ばれたコンサート。演奏を身近に聴ける場で、大学近隣の方も来聴される中、学生たちはスバラシイ演奏に接しました。

この後、2月19日(木)「春のコンサート」名古屋市熱田文化小劇場、2月24日(火)「カワイ・ブルー ピアノコンサート」、3月13日(金)「卒業演奏会」しらかわホール、などの演奏会が予定されています。

ピアノコース 教授 田中航造

電子オルガンコース

電子オルガンコースの2014年度のご報告をさせていただきます。

今年度の新入生が非常に積極的な学生だったせいもあり、年度を通してコースは活気に溢れていたと申せます。

春のオープンキャンパス恒例のプチコンサートや音楽ビジネスとのコラボで企画されたロビーコンサートにも多くの学生が澁刺とした演奏を聴かせてくれました。

これも恒例になりましたピアノコースとの協奏曲の演奏会(名古屋音楽学校にて)でモーツァルトとシューマンのコンチェルトのオーケストラパートを学生らが演奏しました。2013年度の時専任の私が指揮をしてまとめましたが、今年はより豊かな指揮経験を持つ音楽文化創造学科の山田純教授にお願いしました。果たして山田教授は電子の学生に得難い啓示を与えて下さり、本番も大変良い形に導いて下さいました。

夏のワークショップ(東キャンパス)にも、中部東海北陸を中心に多くの指導者、上級音教生が集まり盛況の内に成功裡に終わりました。この回のゲストはスケジュールが合いづらかった超がつく人気プレイヤー、富岡ヤスヤ氏にいらしていただき、大いに盛り上がったライブをしていただきました。外部のお客さん方には勿論、学生らにも大変良い刺激になり、また大変喜ばれました。

学部主催の定期演奏会(しらかわホール)にも1名がプログラムに入れて頂きました。声楽、ピアノや弦管打の皆さんと並んでこのような機会は得られる事は、電子オルガンという楽器や文化を広める上でも大変喜ばしい事で有り難いです。

12月、コースとしての年度の最大級イベント『アースエコー』(熱田文化小劇場・コース定期演奏会)もお陰さまで大成功いたしました。先に申しました通り、新入生からして弾きっぷりの良い学生が多く、親バカ?!に似た気持ちで申せば、例年にも増して高いレベルの演奏を提供出来たのでは…とっております。毎回やっておりますアンコール的なアンサンブルは、第9とクリスマスを融合させまして『第9…クリスマス』という趣向で第9全楽章のダイジェストを多くの有名クリスマス曲のメロディを織り混ぜたアレンジを書いて学生らに弾いてもらいました。

2月アタマに、2014年度の初試みとして学生らが企画した、名芸電子オルガンコースの総力を結集した音楽祭(演奏会)、題して『オルガン・フェスティバル』というもの本学の大アンサンブル室で開催し、好評を得ました。在学生のみならず卒業生の有志にも公募をかけて、自由に自分達のしたい音楽を披露するという形のライブです。最後にはゲストとして私も演奏しました。とにかく出演者には大いに喜ばれ、卒業生フォローの上でも大変良いように思えましたので、何とか恒例化を目指したく存じます。

等々、元気も質も伴った今年の電子オルガンコースの2014年度でありましたことをご報告させて頂きました。来年度も学生らや、その演奏に触れてくださった皆様に「豊か」で「活きた」音楽をお届け出来るよう、学生らと共に精進したいと存じますので、色々よろしく、変わらぬご理解、ご協力お願いいたします。

鷹野雅史電子オルガンコース 准教授 鷹野雅史

《音楽文化創造学科》

ミュージカルコース

ミュージカルコースでは前期と後期の2回、ブロードウェイミュージカルの試演を行っています。今年は「A Chorus Line」(前期/1.2年)と「Les Misérables」(後期/1.2.3年)に挑みました。名作の上演は大きな困難を伴いますが、それだけに得られるものも多く、毎年のことですが、学生たちは多少の自信と大きな課題を抱える結果となりました。

ミュージカルコースの学生は、音楽総合研究所(ミュージカル)のカンパニーメンバーたちに依頼された公演にも出演する機会があります。今回も北名古屋市、セントレア空港、武豊町民会館、高山市で行われた「ザ・ベストテン・コンサート」に何人かの学生が出演しました。このコンサートは、祖父母やご両親の青春時代を飾った歌を若者たちが歌うという趣旨のもので今回で5年目となります。このコンサートは今年も北名古屋市、武豊町民会館、高山市出の公演が予定されています。

そして、7回目となった飛騨・童話会議。高山市の年中行事の一つにもなっている市民参加のこのミュージカル公演は岐阜県や高山市の皆様、そして飛騨地域にお住まいの卒業生の皆様のご協力で成り立っています。今年はこの公演の参加者が名古屋芸術大学を受験して下さいという嬉しい出来事もありました。

ステージを目指す若者たちが精一杯に創り上げる様々な公演、お時間がありますれば是非、足をお運び下さい。

ミュージカルコース 教授 森泉博行

ジャズ&ポップスコース

後期になり9月に全学部共通オープンキャンパスがあり、ジャズ&ポップスコースではライブコンサートを行い、10月の芸大祭においてもコースのグループが活躍する機会がありました。2015年1月には今年度最後となるロビーコンサートが行われ、授業の成果が十分発揮されていました。

今年度の公開講座は、アメリカ西海岸全域で音楽活動をされている黒沢豪氏のグループによる演奏が行なわれ、後半で楽器の説明があり、メンバーの黒澤氏の弟が使用している楽器「ベアトラックス」について紹介があり、楽器の機能や使い方について自らの演奏を交えた解説がありました。

参加した学生は、普段接することのできない貴重な体験をし、新たな創作活動の手がかりを掴むことが出来たと考えています。

ジャズ・ポップスコース 教授 竹本義明

アートマネジメントコース

2012年に「ビジネスコース」からコース名を変更し、新カリキュラムへと移行した「アートマネジメントコース」は、2015年度をもって全学年で新カリに基づいた授業が実施できるようになりました。つまり旧カリと新カリの同居状態から、晴れてスッキリとしたコースの姿を示すことができるようになった訳です。

アートマネジメントコースが看板を掲げたその年は「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」が成立した年でも

あります。この法律には芸術運営を担うアートマネジメント人材の育成が必死であることが述べられていました。従って、コースのファウンダーは、この法律の理念や理想や目標をすべてこのコースに託すことになりました。

ただし、こうした理念が広く浸透していくまでには、やはりそれなりの時間が必要であることは仕方ありませんが、劇場、ホール、文化施設の関係者たちがずっと待ち望んでいたこの法律が浸透するにつれ、これにより日本の文化施設が担うべき文化の振興に拍車がかかることが期待されます。そして、大学に任された人材育成の役割はさらに重要視されていくはずで。

図書館には図書館法が付属して図書館の役割が明示され、国家資格を持った司書がその任を負ってきましたし、また美術館・博物館にも博物館法がその役割を公に謳い、やはり国家資格を持った学芸員がその仕事を行ってきました。しかしながら公立文化施設の大部分を占める劇場や音楽堂(ホール)には、これまで専門の法律も、さらに資格を持った専門家もいませんでしたが、この「劇場法」が成立したことにより、やっと文化施設の担う文化振興の重要性が認識され、かつその任務が明確になり、そしてそのための予算も認められることになりました。

文化庁は、この法律の成立とともに、文化の振興を図る専門家の育成の必要性を述べています。これこそが、アートマネジメントに係わる人材の育成であることは間違いありません。図書館にとっての司書であり、美術館・博物館にとっての学芸員に相当する専門家とならぶアートマネジメント人材の公の認知となるでしょう。アートマネジメントコースが完成する年を迎え、スタッフ一同大いなる期待を胸に教育活動に邁進していくつもりです。どうぞご協力を頂きますようお願いする次第です。

アートマネジメントコース 教授 山田 純

音楽教育コース

音楽教育コースの学生の多くは、将来、音楽指導者になりたいという夢を持って勉強に励んでいます。音楽指導者と一口に言っても、学校の教員をはじめカルチャー教室の講師、個人のピアノ教室など、その内容はさまざまです。2年生対象の「音楽教育特論」(音楽教育コース専門科目)では、オカリナ、大正琴、合唱、ピアノ、吹奏楽、三味線などの指導方法を学ぶ授業を展開しています。この授業では、教師になるための知識のみならず、模擬授業を通して、人前で話す心構えを身につける体験をします。最初は恥ずかしくてなかなか顔を上げられない学生も、体験を重ねるうちに慣れてきて、顔つきも態度も徐々に“先生らしく”成長してゆく姿にたのしみを感じます。

一方、昨年9月には1年生とともに「日本の音を探そう!」という目的で城下町犬山に出かけました。犬山城下の国宝茶屋「有楽苑」の水琴窟の澄んだ音色をはじめ、日頃聞き逃している日本の音探しは、大変興味深い体験だったようです。また、9月のオープンキャンパスでは、「楽器作りを体験しよう!」というテーマで、音楽教



育コースの学生全員でアフリカの民族楽器「カリンバ」製作講座を実施しました。内容は、カリンバのキットを組み立てて完成品を作るというもので、学生たちが18名の参加者たちに作り方を説明し、参加者の製作状況を見ながらアドバイスをし、最後に完成したカリンバで《きらきら星》と《アメイジング・グレイス》の演奏を楽しみました。とてもなごやかな楽しいひとときでした。

2月2日には、4年生を中心に卒業論文の学内発表会を実施しました(卒論テーマは音楽教育コースのHPに掲載)。いずれの論文も力作でした。また、2月9日-10日には、ゼミ研修で3年生とともに香川県の金刀比羅宮と、日本で最古の芝居小屋金丸座を訪れ、日本の文化・音楽文化に触れました。加えて、次年度の卒業論文テーマについても話し合いました。学生たちがさまざまな音楽の世界に接し、音楽的体験を重ね、多くを学べるコースを目指します。

音楽教育コース 教授 金子敦子

音楽療法コース

9月8、9日には、八ヶ岳にて1年生のセミナー合宿が行われました。1日目は、清泉寮屋外でのサウンドスケープ体験を行い、名古屋近辺ではなかなか聴けない自然の音にじっと耳を傾けサウンドマップを作成しました。



2日目は、御諏訪太鼓を体験しました。奏者の方々の迫力ある演奏を間近で聴き、その後先代小口大八氏の作曲した「勇駒」という曲を教わりました。身体全体を使つての演奏に最初はギクシャクでしたが、奏者の方々の指導のおかげで、なんとか形になるまでに仕上げることができました。

9月19～21日に行われた日本音楽療法学会学術大会では、卒業生2名が口頭発表を行いました。二人とも緊張しながらも堂々とした発表振りでした。また、11月29日には、西キャンパスにて第2回音楽療法研究会を開催し、多くの卒業生が参加してくれました。内容も卒業生のミニ講座や事例発表、卒業生主催の座談会などが催され、大変充実したものでした。今後も音楽療法コースは、卒業生との共同研究活動を続けていくことで、東海地方での音楽療法の発展に寄与していきたいと考えています。

11月16日には、北名古屋市の旧加藤邸で美術学部主催のアートイベント“記憶の庭で遊ぶ”の音楽イベントを担当しました。地域の方々の年齢層に合わせた曲目、音楽療法独特の楽器を使った参加型プログラムなどを民家の一室で披露し、一体感のある暖かい雰囲気イベントとなり、参加者の方々からもご好評をいただきました。

また12月21日には、学内(大アンサンブル室)で音楽療法クリスマスコンサートを開催しました。こちら来場した子供たちだけでなくその保護者の方々にも馴染みのある曲目も織り交ぜて構成し、最後の参加型プログラムでは、ス



テージと客席が一体となって、音楽療法コースらしいコンサートとなりました。

音楽療法コース 准教授 伊藤孝子

サウンドメディアコース

サウンドメディアコースでは、9月8日より1泊で1年生のフレッシュマンキャンプを行いました。ここでは4年間の具体的な学習内容の確認をはじめ、音楽創作・録音・音響の各分野に別れ、事前に課していた課題を中心に担当教員と密接なディスカッションを行い、個々の能力に応じた教育プログラムを確認することができました。

10月30日(木)、世界的に活躍するレコーディング・プロデューサー・エンジニアである、深田晃氏をお招きし、公開講座「これからの時代に求められる音楽制作と録音について」を行いました。また、11月27日(木)、日本のPA黎明期からさまざまなコンサートの音響に携わり、現在は新しい音空間を表現するマルチスピーカー音響システム「シンフォキャンパス」を提唱する、宮本幸氏をお招きし、公開講座「これからの時代に求められる音響について」を行い、本コースで音楽制作・録音・音響について研究している学生にとって、大変貴重な機会となりました。

2月22日(日)、サウンドメディアコース学生が、現代におけるアートのあらゆる可能性を探求し、音楽作品を制作しながら、映像や照明の演出表現を加え、アートと音楽の有機的結合をめざすコンサート、「カレイド・スコープ」を本学3号館ホールで行いました。今年は室内オーケストラを表現の媒体とし、個性豊かな14曲を発表しました。本コンサートは学生が普段取り組んでいる音楽制作の集大成の場ではありますが、最先端のテクノロジーを駆使した実験的な音楽・音響空間作りを目指して、コースが総力を上げて取りくむことができました。

これからも本コースは、音楽制作・録音・音響を通じて音楽とテクノロジーと芸術の関わりについて学生とともに考えていくことができたらと考えています。ご支援のほどよろしくお願いいたします。

サウンド・メディアコース 准教授 長江和哉

作曲・理論コース

作曲コースでは、作品を構築するのに必要不可欠なエクリチュールを徹底的に学ぶ事で、構成員のはっきりした作品作りが可能になるようマンツーマンで教育しています。

1、2年生次では様々な作曲理論を学び、3、4年生では室内楽作品を実際にかくことが、学生個人個人のスキルアップにつながっています。

例年行われている試演会は、今年も3月7日(土)に実施しました。1年生から4年生の各学生の作品を、弦管打の学生や契約助手の方達にお渡し、クオリティーの高い演奏をしていただきました。本年度の試演会の日はこちらどオープンキャンパスの日とも重なり、学外からのお客様も聴きにきてくださいました。試演会の目的は各学生が学年ごとに決められた課題作品を、半年ないし1年かけて作曲し、それを実際に音にすることで、譜面上

でのイメージと演奏を通じた実際の音との違いを体験させることが大きな目標です。このことは、学生個々のスキルを上げるために大変意義深いものと考えています。今回はピアノソロや4重奏、そして様々なスタイルをもったバラティエーに富んだ音楽作品を試演する事が出来ました。

今後も、この試演会以外に、作品を披露できる環境を整えていくつもりです。

作曲・理論コース 教授 田中範康

《演奏学科・音楽文化創造学科》

音楽総合コース

音楽総合コースでは、名古屋芸術大学音楽学部の特徴ある教育が行われています。学生たちは自それぞれの関心に基づいて教科を選択し、自分で履修計画を作成します。これは、学生たちそれぞれで異なります。学びの主体はあくまでも学生であり、教員と職員はそれをサポートする役割を担います。しかし、教科を選択し、学び、単位を取得するときに、全学的に定められた枠組みがあります。卒業必須単位は124単位です。そして、今年度の4年生からは専門科目82単位、全学共通科目(教養科目24単位以上を含む)34単位、自由選択科目8単位となります。従来との相違は、自由選択科目の導入にあります。これは、専門科目、教養科目に係わらず、自由に8単位を履修できることを意味します。

音楽総合コースは、音楽学部内での科目選択の自由度の高さを特徴とします。これに加えて、(教養関連など)全学共通科目と学部専門科目の区分が柔軟化されたわけです。これをうまく使えば、たとえば声楽を中心に学ぶ学生がイタリア語6単位を履修した後に、ドイツ語あるいはフランス語6単位を履修しても、卒業単位として認められることになります。また、海外への留学を志す学生も同じように利用できるでしょう。もちろん、この8単位で専門科目をより幅広く履修することもできます。

音楽総合コースは、教員によるサポートの一環として年に2度の面談を行っています。3月6日(金)、9日(月)には後期の面談を行いました。教員10名が2名一組となり、学生生活と学習に関して一人一人から状況を聞き取り、アドバイスをしました。今回の面談では、一部欠席があったものの、多くの学生が面談に積極的に出席してくれました。私が話した学生たちは、順調に単位を取得していました。たとえば、ある学生は音楽教育を中心に学び、ピアノと声楽を4単位ずつ履修してきました。しかし、声楽への意欲が高まり、声楽コースの学生と同じ8単位の声楽と履修すると語ってくれました。このように、1年次と2年次の2年間は自分の可能性と特性を発見していくプロセスといえます。そして、面談の中で学生たちの成長を確認できることは、教員にとって大きな喜びとなっています。

この4月には、音楽総合コースには30名以上の学生たちが入学する予定です。音楽総合コースは、かなり以前から学生数の最も多いコースになっています。今後も、学生たちの学ぶ意欲を基礎にしてコースが発展することを期待しています。

音楽総合コース運営委員会委員長 教授 中河 豊

美術学部

以下は2014年度〔後期〕名古屋芸術大学洋画2コースによる活動報告です。紙面の都合上、簡単に紹介します。

※人名敬称略

1. 洋画2（絵画・現代アート）コースの主な出来事

○2014年11月3日（月・祝）-4日（火）-5日（水）

「アーン！ラジオ」と関連企画（名古屋芸術大学）

名古屋芸術大学美術学部事業の三日間限定ミニFMラジオ放送番組「アーン！ラジオ」を学内外に発信。「アーン！ラジオ」関連企画として、大庭大介（京都造形芸術大学大学院担当教員）発案の、京都造形芸術大学と名古屋芸術大学の両校の大学院レベルの交流展（10/31～11/5）を本学A&Dセンター内大ギャラリーで開催した。また、他のスペース（小ギャラリー、スタジオ、ラウンジ）では名古屋を拠点にスペースをシェアして活動する3チーム i/oとyojyo-hanとAMRが参加した展覧会を各々のスペースで開催した。

○2014年11月19日（水）

小谷元彦レクチャー（名古屋芸術大学）

有名アーティスト小谷元彦（東京藝術大学先端芸術表現科准教授）を招聘し、レクチャーを本学B棟大講義室にて開催した。

※2015年度10月30日（金）～11月4日（水）に東京藝術大学大学院先端芸術表現科と名古屋芸術大学同時代表現研究〈洋画〉との大学院レベルの交流展を本学A&Dセンターで開催予定。2014年度には京都造形芸術大学大学院と本学大学院同時代表現研究〈洋画〉との大学院レベルの交流展を開催した。

○2014年11月26日（水）-27日（木）、12月4日（木）、12月16日（火）-17日（水）

アートビジネス講座（名古屋芸術大学）

“美大生だから知るべきこと”をメッセージに、毎年開くアートビジネス講座では竹田裕人（一橋大学経済学部卒業、大手広告代理店勤務、DJ）のレクチャー「アートと経済と夢」とグループワーク「職の適性」を皮切りに、宮津大輔（アートコレクター）と小松現（光文社新書副編集長）の基調報告や対談「the ☆TAIDAN」を実施。アンカーは、ニュータイプのギャラリー（東京）を運営している結城加代子、「起業について」の話を最後に2014年度アートビジネス講座を終了した。アートビジネス講座は知識を得て、アーティストや教員志望者や起業家などを目指すための授業、いずれは社会に出て活動・活躍する学生への特別講座です。

○2014年12月21日（日）

アーン！テレビ活動（北名古屋市）

学生実行委員会が運営する秘密基地プロジェクトに参加して、名古屋芸術大学学長・竹本義明 出演番組

を名古屋芸術大学美術学部「アーン！テレビ」特別クルーが収録した。学長が名鉄犬山線「徳重・名古屋芸大駅」傍ビジネスホテル施設跡の秘密基地を散歩しながら展示作品にコメントするテレビ番組を製作・発信した。

2. 洋画2コースの主なアート活動 フロントランナーたち

〈パブリックスペースでの洋画2コース卒業生の作品発表〉

※他にも洋画2コース卒業生がパブリック施設で発表しているかも知れませんが、ここには本学スタッフの耳に届いた情報のみを挙げています。以下、洋画2コースを洋画コースと表記しています。

○2014年10月8日～13日（月・祝）

若手作家刺激プログラム美術展「motion#2」（名古屋）

3芸大（愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学）に属する3名の実行委員（大崎のぶゆき、吉本作次、宮田道明）がそれぞれのコンセプトで12名の作家を選び隔年に催される若手作家刺激プログラム美術展「motion#2」（主催：公益財団法人名古屋市文化振興事業団）が市民ギャラリー矢田で開催された。名古屋芸術大学洋画コースからは野々村麻里、滝沢美穂、山崎舞衣子、加藤由佳、工藤千紘（洋画助手）の学部卒業生や大学院生が参加出品した。

○2014年12月24日（水）

「VOCA展2015」各賞発表—水野里奈VOCA展奨励賞受賞（東京・上野）

上野の森美術館（東京・上野）で2015年3月14日から3月30日まで催される平面絵画の祭典「VOCA展2015」の展覧会開催前に出品者の水野里奈（洋画コース卒業生）がグランプリに続く奨励賞を受賞した。VOCA展は全国の美術館館長や学芸員やジャーナリスト、研究者など、美術関係者が1名につき1名のアーティストを推薦して催すのが特徴で、推薦作を6名の選考委員で審査してVOCA賞など各賞を決定す



る展覧会です。若手アーティストにとってプロへの登竜門になります。「VOCA展2015」から遡ると、洋画コース卒業生では櫻井りえこが「VOCA展2009」にて佳作賞受賞、2012年は名知聡子、和田典子、渡部裕二の3名が選出されて出品、2013年には佐藤 翠が「VOCA展2013」で館代表が選ぶ大原美術館賞を受賞、「VOCA展2014」では秋吉風人が選出されたように、近年、パブリック スペースでの本学洋画コース卒業生達の活躍が目覚ましい。

○2015年1月8日(火)～1月25日(日) 「ファン・デ・ナゴヤ美術展2015」(名古屋)

名古屋市文化基金事業「ファン・デ・ナゴヤ美術展2015」[主催：公益財団法人名古屋市文化振興事業団]に名古屋芸術大学洋画コース卒業生3名大島歩+朝倉芽生+船戸彩子によるコラボレーションワーク企画案「TO BE CONTINUED」が4名の企画委員による審査に通り、共同作品を名古屋市民ギャラリー矢田施設内第一展示室で発表した。

○2015年1月17日(土)～2月22日(日)

現代美術展「豊穣なるもの 現代美術 in 豊川」

(愛知・豊川市)
あいちトリエンナーレ地域展開事業とあいちトリエンナーレ地域展開事業実行委員会が共同開催する桜ヶ丘ミュージアムリニューアルオープン記念の現代美術展「豊穣なるもの 現代美術 in 豊川」が豊川市桜ヶ丘ミュージアムや豊川信用金庫旧いなり支店、古民家を会場に催され、洋画コース卒業生の関智生と坂本和也(洋画助手)と水野里奈が参加出品した。



興事業団による3芸大(愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学)発の展覧会「REN-CON ART project 連茎する現代アート」に参加し作品発表。

○2015年1月24日(土)～3月22日(日)

「鬼頭健吾 Migration “回遊”」展群馬県立近代美術館(群馬・高崎市)

国内外で発表している洋画コース卒業生・鬼頭健吾が群馬県立近代美術館「鬼頭健吾Migration “回遊”」展やガトーフェスタ ハラダ 本社ギャラリー(群馬)、ケンジタキギャラリー(東京/名古屋)、計4会場で同時期に作品発表して好評を博している。(鬼頭健吾は2015年度洋画コース客員教授として実技を指導する)

○2015年1月下旬

清須市第8回はるひ絵画トリエンナーレ審査結果発表(愛知・清須市)

清洲市はるひ美術館にて洋画コース卒業生や在校生の野田将也、坂柳光香、加藤由佳の作品が佳作と評価されて清須市第8回はるひ絵画トリエンナーレに出品する。展覧会会期は2015年4月19日(日)～6月7日(日)。

○2015年2月17日(火)～3月1日(日)

「アーツ・チャレンジ2015」(名古屋・栄)

「アーツ・チャレンジ2015」は全国の若手芸術家を対象に美術作品の企画募集を行い、選考の上、全国や世界に発信する活動発表の場を提供する展覧会です。今回は全国、海外からの応募作品107組中、若手芸術家13組(12名1団体)が愛知芸術文化センター(名古屋・栄)のアールスペースやパブリックスペース空間の特徴を活かした作品を制作・展示する。本学洋画コース卒業生の坂本和也(洋画助手)と田中里奈が厳しい選考に通り、参加出品した。



○2015年2月9日

ワンダーサイトシード2015展入選者発表(東京・渋谷)

TWS発ワンダーシード2015展で本学洋画コースから滝沢美穂、水口智之、濱口綾乃、福原穂奈美が入選!本展は若手アーティストを対象に公募、入選作品を展覧会場にて展示・販売して若手アーティスト作品と多くの美術愛好家が出会える場をつくることを目的とする。本展は2015年2月21日(土)～2015年3月22日(日)、会場はトーキョーワンダーサイト渋谷。



○2015年1月17日(火)～3月8日(日)
「REN-CON ART project 連茎する現代アート」(名古屋)

名古屋市新栄町にある名古屋芸術創造センターでは洋画コース卒業生の杉浦光(洋画助手)が公益財団法人名古屋市文化振

洋画2コース 大崎正裕

デザイン学部

2月に入ってから時折小雪の舞う寒波の到来があったりもしますが、キャンパスはこの時期特有の熱気にあふれています。昨年末から4年生は卒業制作審査、1・2・3年はレビュー展、加えて入学試験、次年度準備等が立て込み、学生、教職員ともども慌ただしい日々を送っています。

デザイン学部は、2014年度も4月に無事定員を満たす新入生を迎え、彼らは1年間のファンデーション(デザイン学部共通基礎実技プログラム)を履修し、この1月にその全ての成果を展示公開するレビュー展に臨みました。この〈デザインレビュー〉科目は、学生(1-3年生)にとって、自らの1年間の制作・研究活動を振り返り、検証し、次のステップへの指針を得る重要な機会として位置づけられています。また1年生にとっては2年以降のコース選択に関わる審査を兼ねたものであるだけに、特別な緊張をもって取り組むことになります。

本学部では近年、学外での活動に特に積極的に取り組んでいます。これらは学内で実施するカリキュラム内容に加え、学生により高い実践的な教育効果をもたらすとともに、開かれた大学として学外との連携を深め、研究レベルの向上、大学情報の発信を促進することなどを目的に、近隣地域住民や行政、産業との事業連携に臨んで

います。本年度も、北名古屋市、常滑市、名古屋市等の行政や地域住民の皆様との事業、企業では名古屋鉄道、ラッキー工業、ワールド等との事業が実施されました。こうした活動には学生はもちろん、その指導にあたる教員にとりまして大きなエネルギーが求められますが、事業を無事成立させたいと思う熱意がこれまで多くの成果につながってきています。

さて、こうして4年間を終えようとする学生の集大成としての卒業制作展が、まもなく愛知県美術館ギャラリー、市民ギャラリー矢田(いずれも名古屋市)、アート&デザインセンターギャラリー(本学)の3会場にて開催されます。学生たちが何に関心をもち、何を大切に思い、それをそれぞれの専門性の中でどのように研究や制作に昇華させたのか。ひとりひとりの多様な表現にそうした目標が存分に達成されていることを強く願うばかりです。つきましては、新たなステージへと向かう覚悟と希望に満ちた彼らの作品を少しでも多くの方々にご覧いただきたく、お時間がありませんでしたらぜひ会場へ足を運び下さいますようお願い申し上げます。また、期間中に開催される記念講演会では「デザインしないデザイン」という刺激的な演題で、デザイン活動家のナガオカケンメイ氏に登壇していただく予定になっております。

デザイン学科長 准教授 萩原 周



2014年度レビュー展
多くのコースの作品が高密度に展示される会期中の体育館の風景
(一般公開日：2015/1/10.11.17.18)



「土と人のデザインプロジェクト2014」
特別客員教授 服部滋樹教授の監修による大学周辺地域の
素材や魅力を活かしたゲストハウス・モデルルーム
[旧ビジネスホテル徳重](オープンハウスイベント：2014/11/7)



「常滑フィールド・トリップ2014」本学常滑工房のある
「常滑やきもの散歩道」内および周辺エリア一帯でのアートイベント
(会期：2014/10/11-19)



2015名鉄受験生応援キャンペーン
「がんばれ受験生 さくらTRAIN」のラッピングシール
デザインによる車両(運行：2015/1/31-2/28)



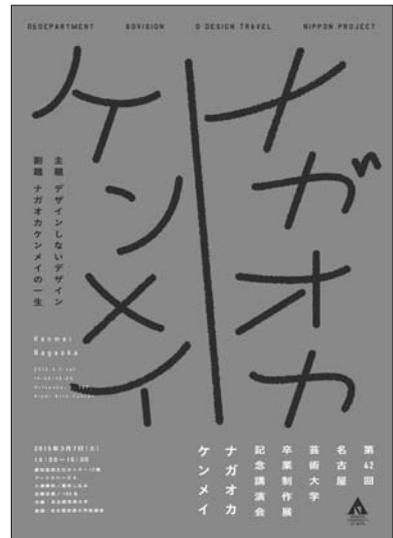
「新しい世代へのベビー用品のデザインおよび機能の開発」
ラッキー工業との産学協同プロジェクト



「FLOWER STORM」上小田井mozoワンダーシティ：
フラクサスのウィンドウディスプレイ、
株式会社ワールドとの産学連携プロジェクト



第42回卒業制作展



卒業制作展記念講演会

2014年度 デザイン学部 「Review」展

今年で32回目となるデザイン学部レビュー展が
2015年1月10日～11日、17～18日に開催されました。

今年もレビュー展のDM、ポスターはヴィジュアルデザインコースが取り組み、3年生の池村美咲さんが選ばれました。それぞれのコースで制作に使用される画材、制作用具などをモチーフとして足跡を形成し、その足跡が進んでいく様を学生の成長になぞらえる構成となっていました。1年生はX棟3Fの教室、2、3年生は体育館、Xギャラリー、和室、プレゼンテーションルーム、シミュレーション室で展示されました。

1年生にとっては、本学に入り初めての一般公開をおこなう展示となり、個々の学生が展示に工夫を凝らしていました。2、3年生はコースにわか



れたの展示となり、学生の作品展示を通して、それぞれのコースの特徴も感じ取ることができました。

1月10日にはAO入試、推薦入試の合格者を対象とした入学前プログラムを実施し、4月から名古屋芸術大学の一員となる高校生がレビュー展を見学しました。一年後の自分たちの姿を重ね合わせるように真剣に見入っている姿が印象的でした。

今年度も多数の来場者が本展にお越しいただきました。卒業生、保護者、後援会の方々をはじめとして、来場いただけました皆様にお礼を申し上げます。

デザイン学部 講師 永井龍登

人間発達学部

人間発達学部発足以来の目標であった他学部との連携協力も徐々に進み、ようやく東海地区唯一の芸術総合大学の中の保育・教育系学部であるという特色を生かした学部作りが形となって表れてきました。

卒業論文制作を終えた4年次学生たち、『春を呼ぶ芸術フェスティバル』をやり終えた3年次学生たち、2週間の保育所実習を終えた2年次学生たち、ゼミナールⅠを通して自分の将来の方向性を見すえたであろう1年次学生たち、皆それぞれ一生懸命自分のやるべきことに取り組み、充実した今年度を過ごし、次年度の準備を迎えるばかりになってきました。

学部行事

(1)特別公開講座

人間発達学部が主催する津金美智子氏特別公開講座【これからの質の高い幼児期の教育を考える】が、11月1日(土)ウィルあいち(名古屋市東区)で開催されました。会場には、人間発達学部の学生をはじめ、卒業生や幼稚園・保育所・こども園の先生など、大勢の方が来場されました。前半は平成27年4月よりスタートする、子ども・子育て支援新制度『幼保連携型認定こども園』の教育・保育要領のあらましについて、後半は質の高い幼児期の教育の考え方についてお話をされました。最後に、これから教育の現場に向かう学生たちへ「子どもたちはとことん遊ぶことで、いろんなことに気づき、数や量のこと、ひらがなのこと、読み書きのことを体験から学びます。それはやがて科学的・論理的な思考力へとつながっていきます。その芽生えの姿が遊びの中にはたくさん含まれています。どうか遊びを大事にしてください。」と伝えこの講座を結ばれ、会場からは大きな拍手が送られました。

(2)就職支援

11月20日及び12月13日の2回に分けて就職セミナーが開催されました。第1回目は就職の決定している4年生が2・3年生に向けて体験談を話す形で行われ、公立幼稚園・保育所、私立幼稚園・保育所、小学校、福祉関係施設、企業・一般公務員の五つの分科会に分け開催されました。第2回目は同じ五つの分科会に分かれ実際に就職している卒業生を招聘し開催しました。第1回・第



就職セミナーの様子

2回ともに、就職という人生の岐路を間近に控えた2・3年生は真剣な表情で先輩の姿を見つめ質問をしたり先輩方の体験談のメモを取ったりしていました。大いに参考になったようで意義深いセミナーとなりました。

2月24日に就職対策模試が学内で3年生を対象に教員志望者・保育士志望者に分かれ行われました。教養・専門・作文等の模試に約半数の学生が参加し、7月に迫っている就職試験に備えています。3月23日には面接講座も行われます。このように学部の就職委員会が様々な企画をし万全の準備をしております。問題点として、就職に関心の高い学生と就職に関心のない学生との差がはっきり現れてしまい出席率に影響していることがあげられます。学生の基礎学力向上と併せて就職への意欲を4年間継続させる為に教員全員の一層の努力を期待します。

(3)卒業論文制作・修士論文中間発表会

今年度も1月29日に卒業論文・卒業制作発表会を行いました。1年次からの基礎ゼミ、3年次からの専門ゼミとしてのゼミⅢに発展させた問題意識をまとめ上げて、各ゼミ毎に午前午後に分かれて発表しました。発表会も五回目を迎え少しずつですが、研究姿勢を持った保育者・教育者の養成が実を結んできており、これを大学院研究科に結び付けていきたいと考えます。大学院修士論文中間発表会は2月17日に行われ、活発な討議が展開されました。

(4)春を呼ぶ芸術フェスティバル

2月14日には、近隣の市町村の保育所・幼稚園・小学校にチラシを配布し、来年度入学予定者に参加を呼びかけて、3年生実行委員が独自に企画運営するフェスティバルを開催しました。学部学生が素晴らしい資質や感性を持ち合わせている事に対して自信を高めてもらう目的でスタートしたこのフェスティバルも6回目を迎えます。今年度は特別ゲストに世界的なミュージシャンであるドン・ルイスさんをお迎えしたことで一層の盛り上がりがありました。また、絵本プロジェクトにおいては、西キャンパスと東キャンパスのコラボが深まり、新しいエネルギーと熱気を感じることができました。学生たちにも達成感があつたのではないかと思います。今回は特に他学部の先生や学生の協力があり素晴らしいフェスティバルになったことに心から感謝申し上げます。



春を呼ぶフェスティバルでの ドン・ルイス氏

(5)ヨーロッパ教育セミナー

3月3日～15日まで先進の保育・教育を学ぶ、イタリア・スイス・ドイツ教育セミナーが始まります。イタリアのピストイアにて研修、スイスではシュタイナー教育の体験や見学、ドイツでの森の幼稚園、フレーベル幼稚園での先端の幼児教育を学ぶことで、学生たちの国際的な保育・教育観に磨きがかかることを期待します。

(6)学生の就職状況

2月の時点で進路が内定した学生が87人(73%)です。その内訳は、公立小学校3名(正規採用3名)、保育所31名(公立8名、私立23名)幼稚園26名(私立26名)、施設職員8名(公立1名、私立7名)、公務員1名、音楽講師1名、一般企業11名、進学1名です。昨年同様現段階での就職内定率は低いのですが、例年発表の遅い公立小学校の常勤講師や保育所等の採用を待っている学生がいますので最終的には殆どの学生が内定を得るものと思われます。また、小学校や公立保育所においては次年度等卒業後に現場経験を積みながら努力し合格する卒業生も多くみられます。今後の努力に期待が膨らみます。

(7)教員移動

本年度末をもって、星三和子教授(発達心理学)が定年により退職され、森田裕之准教授(教育学)が大谷大学へ転勤されます。星先生は、大学院研究科立ち上げか



すみれ幼稚園見学

ら、森田先生は学部の前身である短期大学部保育科の時代からその発展にご尽力され、学生からも信頼の厚い先生方でしたので本学部を去られることは極めて残念なことです。来年度4月から、臨床発達心理学系の中嶋理香先生、幼児教育学系の豊田和子先生、生活・保育内容環境系の鎌倉博先生の三名の教員が着任されます。人間発達学部は発足して8年を経ました。新年度からは新しい教員の顔ぶれを含め「発展期」と呼ぶにふさわしい年度となるよう教員一同力を合わせていきたいと思ひます。

人間発達学部長 教授 星野英五

大学へのお問合せ先一覧

内 容	担当部署	電話番号	
学納金(学費)について	庶務会計課	東キャンパス (音楽学部・人間発達学部) 0568-24-0315 (代)	
成績について 証明書発行について	教務課		
休学・退学について 課外活動・大学祭等について 住所変更等について 就職について 資格取得講座について アルバイトについて その他学生生活全般について	学生支援課		
本学入試に関すること 本学大学院進学について 本学研究生・研修生について	広報入試課		
教員免許・学芸員資格について	教職センター(実習指導室)		
交換留学について	国際交流センター(学生支援課)		
生涯学習講座について	生涯学習センター(学院広報室)		0568-24-0359 (直通)
音楽学部主催の演奏会等について	演奏課		東キャンパス 0568-24-5141 (直通)
アート&デザインセンターで開催 する展覧会について	アート&デザインセンター		西キャンパス 0568-24-0325 (代表)
後援会について	事務局(事務部長)		東キャンパス 0568-24-0315 (代表)

大学事務局で保護者の方からのご質問やご相談にお応えする場合、以下のような確認をさせていただく場合があります。特に個人情報が含まれる内容に関しては、ご子供の「学籍番号」の確認、本人の確認、保護者の確認を行った後、ご質問やご相談にお応えします。大学に登録されている情報と異なる場合は、お問合せに応じることができませんので悪しからずご承知おきください。

なお、連絡先等を変更された場合は、お手数でも変更の手続きをなされますようお願いいたします。変更の手続きが行われなければ本学からのお知らせや成績等をお届けすることができなくなります。

学生部報告

進化する『つなぐプロジェクト』

～学生たちが創る魅力“MEIGEI”を地域・社会へ：知の拠点～

「キャンパスをつなぐ、在校生と卒業生をつなぐ、教員と学生をつなぐ、教員と職員をつなぐ、地域と大学をつなぐ」をコンセプトに、2014年4月より教職員有志によって生き生きとした活気のあるキャンパスづくりを目指して『つなぐプロジェクト』の活動が始まりました。そして、この指とまれ方式で、学食ライブ、デザイン学部生映像作品上映、卒業生による移動カフェ、学生カフェ、学生作品展示&即売会、韓国語ゼミ、中国語ゼミ、フィルム・ナイト、芸大祭模擬店出店、図書館便り、今月の一冊など、様々な企画が行われ、多くの学生が主体的に参加しました。

また今年度は、美術・デザイン学部の学生が絵本を製作し、音楽学部の学生が作曲・演奏し、人間発達学部の学生が朗読をするというそれぞれの持ち味を織り交ぜた「絵本読み聞かせ」が行われ、学内活動から地域での発表へとその活動が広がっています。さらに豊橋市（自然史博物館）と北名古屋市（白木小学校）と大学との連携協定などを通じて、世界的音楽アーティストの招へい、学生によるコンサートやグッズ開発企画などを行い、地域・社会とのつながりを広げています。

本（もと）より、地域・社会とのつながりは大学（教職員）が中心で、学生はマンパワーとして補助的な係わりしかありませんでした。しかし近年、社会で生きていく力を引き出すために、学生の主体的な学びを引き出す取り組みを行うことが大学に求められるようになり、学生の活動に大学も積極的にコミットするようになってきたのです。

私は『つなぐプロジェクト』の活動を通して、一つのテーマ（プロジェクト）に集う人をつなぐことで相互に自己の能力を補完し合い、“チーム”として完成度の高いパフォーマンスを発揮することができることに改めて気づかされました。そして発揮されたパフォーマンスやそれに至る過程が、我が名古屋芸術大学独自の魅力“MEIGEI”（その魅力を本学独自のものとして示すため、あえて魅力“MEIGEI”とした）となり、地域・社会、さらには世界規模のつながりの中心、魅力の発信地、知の拠点となりうることを確信しました。この実現のために、つなぐプロジェクト活動を続けていきたいと考えています。

学生部長 教授 菅嶋康浩



皆さん受賞おめでとうございます!

2014年度の本学在学学生(学部学生及び大学院生)や卒業生の展覧会や各種コンクール等における受賞結果をお知らせいたします。2015年2月12日現在、大学に報告があった者のみを掲載しています。

音楽学部

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	楽器など	学年・卒業期	氏名
2014年						
4月27日	第6回岐阜県国際音楽祭コンクール	岐阜国際音楽祭実行委員会	声楽部門 一般I 第2位 および文化人特別賞	声楽	3年生	太田 麻華
			声楽部門 大学 第3位	声楽	3年生	大坪 智子
				声楽	4年生	坂口 稚奈
			専門コースピアノ大学生部門 1位	ピアノ	4年生	端地 貴文
			専門コースピアノ一般I部門 3位	ピアノ	36期卒業生、 大学院修了生	水野 佐紀
			専門コースコンチェルト大学生部門 ジャーナリスト特別賞	ピアノ	3年生	佐藤 優
			専門コースピアノ一般I部門 文化人特別賞	ピアノ	大学院2年生	今村 洋平
			弦楽器部門 大学第2位 および文化人特別賞	チェロ	4年生	城間 拓也
			弦楽器部門 一般I 第2位	ハーブ	35期卒業生	高田 知子
			専門コース管楽器一般I部門 2位	フルート	大学院2年生	長嶋 笑加
管楽器部門 一般I 第1位 ジャーナリスト特別賞	クラリネット	大学院2年生	浅井 美帆			
6月6日	第6回ジャンニーノゼッカ国際コンクール	—	第2位	声楽	29期卒業生	伊藤 貴之
7月17日	第50回日伊コンソルソ	読売新聞社、 日伊音楽協会	優勝、五十嵐喜芳賞、岡部多喜子賞	声楽 (テノール)	28期卒業生	笛田 博昭
7月24日	第2回山田貞夫音楽賞	公益財団法人 山田貞夫音楽財団	山田貞夫音楽賞 および特選	ピアノ	38期卒業生	山本多恵香
9月6日	第8回横浜国際音楽コンクール	横浜国際音楽コンクール審査委員会	管楽器部門 一般Aの部 第1位	フルート	43期卒業生	横田 彩
			管楽器部門 一般Aの部 第3位	フルート	43期卒業生	奥村 愛
			一般の部GeneralB(+35) 審査員特別賞	ピアノ	大学院修了生	直江 慶子
			連弾の部 4Hands 第2位	ピアノ	31期卒業生	平野 玲美
33期卒業生	小川 真奈					
10月4日	第3回名古屋音楽コンクール	国際芸術連盟	声楽部門 第3位	声楽	28期卒業生	川合 佐知
			管楽器部門 第1位	クラリネット	38期卒業生、 大学院修了生	水野 沙織
			管楽器部門 第2位	クラリネット	36期卒業生	三摩 恵里
			管楽器部門 第3位	クラリネット	43期卒業生	田中 沙紀
10月5日	第20回みえ音楽コンクール	みえ音楽コンクール実行委員会	声楽部門 大学生・院生の部 第3位	声楽 (ソプラノ)	3年生	早川 あみ
			フルート部門 大学生以上一般A 第3位	フルート	4年生	中之丸 舞
			フルート部門 フルートアンサンブルの部 第2位	フルート	44期卒業生	矢野 湧人
					2年生	岸 舞子
					3年生	鷺山 佳奈
			フルート部門 デュオ+ピアノ部門 第1位	フルート	43期卒業生	勝田 晴香
					—	坂部 彩
			フルート部門 デュオ+ピアノ部門 奨励賞	フルート	44期卒業生	矢野 湧人
4年生	中之丸 舞					
10月12日	平成24年度 愛知県芸術文化選奨文化賞受賞記念 山口雅子ソプラノリサイタル	公益財団法人 名古屋市文化振興事業団	愛知県芸術文化選奨文化賞	声楽	非常勤講師	山口 雅子
10月13日	第15回大阪国際音楽コンクール	大阪国際音楽コンクール実行委員会	管楽器部門 Age-U エスポワール賞	バス クラリネット	2年生	黒住 恭子
12月5日	第21回日本プロ音楽録音賞	一般社団法人日本オーディオ協会、社団法人日本音楽スタジオ協会、日本ミキサー協会、一般社団法人日本レコード協会、一般社団法人演奏家権利処理合同機構、NHK日本放送協会	部門D「2ch ノンパッケージ」部門 最優秀賞	ミキシング&マスタリング・エンジニア	サウンドメディアコース教員	長江 和哉
				アシスタントエンジニア	41期卒業生	島田 裕文
				アシスタントエンジニア	44期卒業生	竹内 耕平
12月6日	学生の制作する音楽録音作品コンテスト	一般社団法人 日本オーディオ協会	音楽賞	音楽録音作品	大学院1年生	松永 麻耶

美術学部

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名
2014年						
4月15日～20日	2014中部新制作絵画展	新制作協会	中部新制作賞	大学院2年生	同時代表現研究	山口 蒼平
4月25日～5月26日	アートアワードトーキョー丸の内2014展	アートアワードトーキョー丸の内2014 実行委員会	三菱地所賞	43期卒業生	洋画2	水野 里奈
6月7日(授賞式)	トーキョーワンダーウォール2014公募展	公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト	ワンダーウォール賞 鴻池朋子審査員賞	3年生	洋画2	飯田 美穂
9月8日～9月19日	第8回 CBC翔け!二十歳の記憶展	中部日本放送、CBCラジオ	グランプリ	44期卒業生	日本画	大岡 優美
10月23日	改組 新 第1回(平成26年度)日展	公益社団法人 日展	中日賞	大学院2年生	絵画研究	石川 裕梨
			特選	24期卒業生	日本画	谷野 剛史
			新入選	4年生	日本画	鷲見真由子
				社会人学生	日本画	河合 昭
			入選	研修生	日本画	梅村 愛
				23期卒業生	日本画	岡本 昌子
				4期卒業生	日本画	木村 友彦
				39期卒業生	日本画	長瀬あやみ
				27期卒業生	日本画	野澤 朋恵
				33期卒業生	日本画	長谷川基子
				22期卒業生	日本画	福岡 正臣
				35期卒業生	日本画	福本 百恵
			22期卒業生	日本画	山口今日子	
23期卒業生	日本画	渡辺 智子				
22期卒業生	日本画	林 真				
11月23日	第33回富士山学生書写書道展	毎日新聞、富士山学生書写書道展運営委員会	最優秀団体賞	—	—	書道アート
2015年						
3月14日～30日	VOCA展2015	「VOCA展」実行委員会、公益財団法人日本美術協会、上野の森美術館	VOCA奨励賞	43期卒業生	洋画2	水野 里奈

デザイン学部

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名
2014年						
3月26日	第7回CCDOデザインアワード2013	中部デザイン団体協議会、株式会社国際デザインセンター	グランプリ	36期卒業生、非常勤講師	テキストスタイル	白澤 真生
5月17日	第31回日本ジュエリーデザインコンペティション	公益財団法人日本ジュエリーデザイナー協会	優秀賞	36期卒業生	メタル&ジュエリー	飯田 祐子
8月27日	第99回二科展	公益社団法人 二科会	入選	3年生	メディアコミュニケーション	山田 圭織
11月9日(表彰式)	第5回ポスターグランプリ	愛知県印刷工業組合	入選	3年生	ヴィジュアルデザイン	朝倉小百合
			(株)トコロ賞	3年生		池村 美咲
			入選	3年生		瀧岡 晃子
			入選	3年生		遠山 瑞希
			入選	3年生		中根 志穂
			入選	3年生		中村万由子
			入選	3年生		伏見奈津希
			グランプリ	3年生		森 美奈子
			三重県知事賞	3年生		山口 紗世
			入選	4年生		金子 郁夏
入選	4年生	西田 沙羅				
入選	4年生	増田 梨乃				
11月28日～30日	第28回バリ国際サロンドローイング・コンクール部門	欧州美術クラブ	入選	大学院2年生	デザイン研究科 クラフトデザイン研究	川崎 和美

人間発達学部

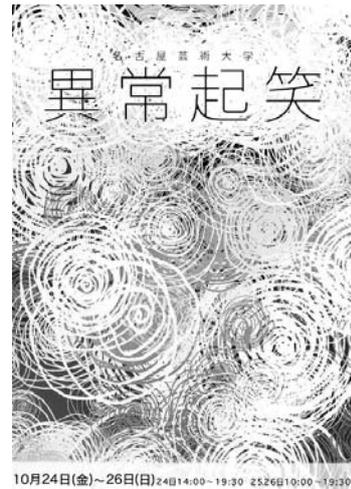
日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	氏名
2014年					
8月24日	第10回全日本学生ラート競技選手権大会	全日本学生ラート競技選手権大会実行委員会	跳躍男子の部 3位入賞	4年生	堀江 正太
			直転男子の部 3位入賞	4年生	伏見 成弘
			斜転男子の部 8位入賞	4年生	加藤 大貴
11月23日(日・祝)	第33回富士山学生書写書道展	富士山学生書写書道展運営委員会	県教育研究会 会長賞	1年生	姫野 綾花

■ 2014年度 東キャンパス芸大祭

今年度の芸大祭のテーマは、芸大祭3日間を、来て下さった皆さんの笑顔がたえない活気のある芸大祭にしたいという思いから、「異常起笑」というテーマになりました。このテーマをもとに実行委員一同、芸大祭にむけて準備をしました。その中で多くの方々に支えられながら芸大祭を成功させることができたことを本当に感謝しています。当日はテーマの通りに、たくさんの方々の笑顔や楽しかったという声を聞くことができ、とてもうれしかったです。

今年度は昨年度から屋外に設置したサブステージをより大きくし、各サークルの発表、ゲストの方による大道芸や、先生方による演奏などで中庭を盛り上げていただきました。2号館に設置したメインステージ、5号館に設置したロックステージでは、たくさんの方々のバンド演奏やサークル発表などを楽しむことができ、3日間、活気のある芸大祭にすることができたと思います。模擬店も様々な種類のお店があり、それぞれに個性あふれる店舗になっていました。毎年、よりよい芸大祭になるようにと実行委員一同準備していますので、来年度は、今年度よりもさらに活気のある楽しい芸大祭になると思います。

最後になりますが、今年度の芸大祭を、多くの方々のご協力により成功させることができたことを心から感謝いたします。ありがとうございました。
東キャンパス芸大祭実行委員長 馬場皓大



10月24日(金)~26日(日) 24日14:00-19:30 25,26日10:00-19:30



■ 2014年度 西キャンパス芸大祭



2014年度の芸大祭のテーマは「どんぱっち」です。あなたの個性ではじける祭りをサブテーマに、名芸の芸大祭は初めて名芸に来る人、名芸の卒業生、地域市民がみなさん一緒になって盛り上げてくださる祭です。ひとりひとりがこの祭を全力で楽しんでもらおうと思いこのテーマにしました。

10月24日(金)から始まる芸大祭に向け、どう3日間盛り上げていくか、名芸らしい芸祭ができるかを大学一丸となって考えました。その結果とても大変でしたが、ステージイベント、外来アーティストイベントなど今年度は実行委員会が主催するイベントすべてが大成功に終わり、僕らも大きな達成感と団結力が生まれました。天候にも今年は恵まれ、自分にもみなさんにもいい思い出となるそんな3日間になりました。この大学の芸祭の情熱、盛り上がりは過去の先輩たちの熱意が継承され、今にも引き継がれていると思います。次の芸祭もみなさんの記憶に残る祭りになると期待しています。そして私たち見る側の人たちも、短く一瞬で弾けてなくなるような楽しい3日間を大切にしていきたいです。

西キャンパス芸大祭 実行委員長 藤木良壮



私 が 就職内定 を もらう まで



4年間に自信を持って

音楽学部 音楽文化創造学科
音楽総合選択コース 4年 宮崎真央

私は小さい頃から音楽が好きで、大学進学を考える際もせっかく学ぶのなら自分の好きなことを学びたいと思い名古屋芸術大学を選びました。その頃は、大学卒業後も何かしら音楽に関わることができる仕事に就きたいと考えており、大学に入学してからはアートマネジメントコース、サウンドメディアコースの授業を中心に勉強をしていきました。

4年生になり就職について考え始めた時に、選択肢は音楽に関わる道だけではない、他にも様々な可能性があるのかもしれない、と思い始めました。家族やアルバイト先の先輩にも相談のつてもらい、私の真面目できっちりとした几帳面な性格は事務という仕事に活かすことができるのではないかと思います。就職活動では事務職を志望することにしました。何社か選考を受けさせていただき、面接で共通してよく聞かれたことはやはり、音楽学部に通っているのに事務でいいのですかということです。しかし、音楽を学んだ4年間は、事務という仕事を選んだからといって決して無駄な

時間ではありませんし、自分の選んだ道なので面接でも自信を持って答えるよう努めました。

そんな中、学生支援課の方が紹介してくださった企業からご縁があり内定を頂くことができました。選考は筆記試験、小論文、面接がありましたが、小論文と面接ではなるべく飾らない、ありのままの自分を知って頂けるよう心掛けました。こちらの企業に限ったことではありませんが、面接において事前に返答を考えずに臨んだことが私の場合は良かったようです。質問に対してその時思った正直な気持ちを話したことで、普段に近い自分を伝えることができたのではないかと思います。

就職活動を考え始めた頃、音楽以外の道に進むことは芸術大学に入学し音楽を学んだ4年間が無駄になってしまうのではないかという思いが心の片隅にありました。ですが徐々に、この大学で学んだことは他の人が持っていない強みになるのだと感じられるようになり、選考にも自信を持って臨むことができました。そしてなによりも、見守ってくれていた家族が喜んで、少しでも安心させてあげられたことを嬉しく思います。4月からの生活に不安はたくさんありますが、家族や今まで私に関わってくくださった方々への感謝の気持ちを忘れずに、一生懸命頑張りたいと思います。

(中津川包装工業株式会社 内定)



私の就活

美術学部 美術学科
洋画1コース 4年 鬼頭美紗世

就職活動を始める際、明確に「〇〇社に入りたい」「こんなことをしたい」という希望があれば、それに向けて対策を練るのですが、大学でずっと油絵を描いてきた私はなかなか絞り込むことができませんでした。油絵からどんな仕事につながるのか想像できなかったのです。大学3年生の12月からエントリーが始まっても、「できればパソコンが使えることが必須条件ではないこと」、それでもなんとか「美術に関わる職」というかなり曖昧な希望しか決められませんでした。

そんな状態だったので、まずは少しでも興味を持った企業にエントリーをしました。結果3社はエントリーシートで落ち、1社は筆記試験は通ったものの面接で落ちました。理由としては私の準備不足だと思われます。学外の就職支援センターにも行きましたが、なかなか内定は決まらず焦りました。しかし4年生の6月頃、就活で悩んでいると、私の地元に近いとある企業が求人募集中だということを他

学年の教授が教えて下さり、結果的にそこが今回私が内定を頂いた会社でした。

家具の布地の企画、デザインができる美術系の仕事だということで、早速応募しました。そしてすぐに面接の日程が決まり、ポートフォリオを持参することになりました。ポートフォリオの大半は以前から出来上がっていたので焦らずに用意することができました。そして企画部長、社長との面接を終え、後日内定を頂きました。面接時には社内見学もさせて頂き、そこでより良い商品を熱心に作り続ける社員の方々の現場を拝見したので、内定を頂き嬉しく感じるとともに、身の引き締まる思いでした。最初の頃は研修が続くというお話だったので、まだまだ道のりは長そうです。

就活の方法は人それぞれだと思いますが、大切なことは常に様々なことにアンテナを張っておくことかと思えます。ふとした会話からたまたま求人のある企業を紹介されたり、大学での様々な活動が面接の話題にできたりと、人生何がどうつながるかわかりません。また、キャリアガイダンス等で頂いたマナー面の資料は役に立ちました。友人、親、先生方をはじめ、多くの方に支えられてここまで来ることができました。まずは1日も早く仕事を覚え、自信を持って前へ進んで行けるよう、邁進したいと思います。

(サンローズ株式会社 内定)



憧れを現実の仕事に

人間発達学部 子ども発達学科
4年 吹原千裕

私は、幼少期から保育士になることが夢でした。その夢が、現実となり4月から公立保育所の保育士として働くことが決まりました。大学に入った頃は、公立園と私立園の就職活動が異なることを知らず、受験勉強をする必要があることさえも分かりませんでした。

保育所実習で子どもとただ遊ぶことでなく、保育・援助をする立場になったことで、保育士が憧れから、仕事にしたいという思いが強くなりました。また、公立の保育士を志したのは、様々な園で保育を学ぶ機会があり、保育士として成長できると思ったからです。大学3年生になると、少しずつこの自治体を受験するかを調べたり、参考書を探し始めたりしました。4年生になると、周りの就職活動の雰囲気になり、勉強に身が入らない時期もありました。そこで、必ず1週間で決めた範囲をやり切るという目標を立て、地道に勉強をしました。また、受験の雰囲気に慣れておこうと思い、積極的に外部模試や勉強会に参加をしました。

夏になると、1次試験が始まりました。私は試験の度に緊張し、落ちたらどうしようかという不安ばかりが頭をよぎりました。そんな時は、必死に勉強したノートや汚くなった参考書を見返し、こんなに頑張ったのだと自分を奮い立たせていました。また、友達や家族に相談することで気持ちの面で支えられました。何より、自分がその自治体に受かりたいという強い気持ちを持ち続けることで、乗り越えることが

できました。その結果、念願の採用内定を頂きました。

これからの新しい生活に不安はあります。しかし、それよりも努力し叶った、保育士として春から働けることは、とても嬉しく、楽しみです。私は、子どもの自主性・感性を大切に、笑顔いっぱいのできる保育士を目指し、励んでいきたいと思います。最後に、様々な面で支えてくれた家族や友人、そして先生方への感謝の意を表します。

(岐阜県瑞穂市公立保育士 内定)



自分が将来どうなっていきたいか、何を成し遂げたいのか。

デザイン学部 デザイン学科
メディアデザインコース
4年 鈴木 択実

私は、入学から自分の方向性や将来やりたい仕事が決まっていた訳ではなく、二転三転として、変化に富んだ大学生活を送りました。工業高校の情報技術科を卒業し、美術学部アートクリエイターコースへ入学したことが大学生活のスタートです。高校での学習内容が好きになれず、理系から一度離れたかったこと、アートやデザインが好きだったので入学を決めました。そこから様々な経験や、学びを通して映像制作に強く惹かれてデザイン学部、メディアデザインコースに転学部しました。就職への意識は強く持っていたので、3年生の夏には映像制作会社でインターンシップに参加し、就活解禁と言われる12月からすぐに行動を開始しました。近場だけでなく、泊まり込みで東京へ積極的に就活に行き、多くの企業とコンタクトしました。当初は大学での専攻分野に合わせて、漠然と映像制作系の職種や、デザイナー職に焦点を絞って活動していました。就活はつらいだけでなく、今までにない様々な刺激があることと、新たな仲間との出会いなど楽しい部分もあり、最初しばらくは意気揚々としていたことを覚えています。しかし、段々と何か煮え切らないものを感じるようになり、面接した企業の方にも意思や軸がブレていると指摘されてしまいました。自分でも何が一番やりたいのかははっきりせず、どうしたら満足のいく将来に向けて手を伸ばせるのか分からないでいました。就職活動は、無防備に飛び込むだけではあまりの情報量の多さに圧倒され、混乱してしまいます。そこで私は自分を見つめ直し、大学での専攻に縛られ、視野が狭かったことに気づきました。自分が将来、具体的にどうなっていきたいか、何を成し遂げたいのかビジョンを真剣に考えました。そこが決まると、私の方向性は自ずと定まり、迷いはなくなりました。私は転学部後、webデザインに触れたことをきっかけに、デザイナーの領域を超えて、高校時代には真面目に向き合わなかったコンピュータ技術やITの世界に魅了されていきました。アートやデザインと合わせて取り組むと、情報技術は私にとって物凄く面白いものだったのです。デザインと共にギークな部分を追求するようになり、ITが世の中に提供しているソリューションについても研究しました。私の興味は、単に映像やデザイナー職ではなく、デザインのカモを生かせるシステムエンジニアになっていました。

自分をきちんと見つめ直し、学業と並行していく中で自分の興味がどこに流れていっているのか分析していなかったら、芸大から一般に理系の職と言われるシステムエンジニアになろうという発想にはならなかったでしょう。UIUX、企画提案力など、エンジニアとしての仕事にもデザインスキルは大きく役立ちます。そこからは、新たな切口で就活を再スタートしました。その後、すぐに苦難はまたやってきました。特につらかったのは、志望している企業に最後

の最後に落とされてしまったことです。私は有名な検索エンジンを持つ企業、ヤフー株式会社の新卒採用試験を受けていました。ITに関して言うまでもなく、大きく最高のステージがそこにはあります。数々の選考に勝ち抜き、最終も良い手応えを感じ、内定がとれるのではと胸を踊らせて結果を待っていました。しかし、私の期待とは裏腹に待ち受けていたのは、残酷な結果です。内定を目前に落とされた悔しさ、そこまで費やした時間や努力、お金、思えば思う程に涙がでるほどショックでした。手応えがあっただけに、原因も分からず、やるせない気持ちでいっぱいでした。落ち込むのは必然でしたが、そこで負けてしまっただけには何も成し遂げられません。相性が悪かっただけと割り切り、高レベルのステージで最後まで勝負できたのだと自信に変えて、気持ちを切り替えました。悔しさをバネに、今まで以上に努力を続け、納得がいくまで就活を行い、最終的に複数の企業から内定をいただくことができました。その中には、東証一部上場の一流企業もありましたが、私が選んだのはまだ未上場の中小企業です。目先の待遇に吸い込まれず、定めた自分のビジョンを達成するにはどこが良いのかを優先しました。そうして、決めたのが株式会社グローバルエンジニアリングです。IT、ロボット、バイオテクノロジーを主な事業としているユニークな企業です。領域に縛られず、柔軟に新しいことへチャレンジしていける環境があり、ここなら私が目指す方向性で成長することができると思った事が大きな決め手でした。就活を終えたのは、5月頃だったと思います。これからもビジョンを達成できるよう、社会の一員として精一杯頑張ります。

最後に、私の経験から就活のアドバイスをして締めくくろうと思います。多くの方が、面接の存在を苦痛に感じているのではないのでしょうか。試験だと思っただけから苦しいので、知らない人と話して仲良くなりいくくらのスタンスで臨みましょう。そんな心構えで大丈夫なのかとツッコミを入れたいと思いますが、大丈夫です。むしろ試験だからとたかくなり、個性を出さずに用意してきた事を淡々と話すだけでは、会話になりませんからマイナスになる企業が多いでしょう。コミュニケーションをとり、一緒に働きたいと思ってもらうことが一番大切な事です。また第一印象が重要なので、身だしなみはきちんと整えましょう。あとは常識的な礼節をわきまえ、軸のぶれないしっかりとしたビジョンを持って、真摯に相手と向き合えば結果に繋がっていくはずですよ。芸大生は、就活というポートフォリオに時間を費やしてしまいがちですが、これらができていないとよほどの天才でもない限り、良い結果を得る事は難しいと思います。ポートフォリオに自信がまだない等の理由でなかなか踏み出せないでいるよりは、経験を積みましょう。面接をはじめ、選考には必ず慣れます。方向性に合わせて、ポートフォリオの作り方もそこから見えてきます。就活は、人として大きく成長できる時期です。

頑張ってください。応援しています。

(株式会社グローバルエンジニアリング 内定)

後援会補助公開講座実施報告

美術学部

学内ラジオの魅力

どこへでも手軽にマイクロフォンや送信機を肩に担いで運べ、極端に言えば最少一人で全てを遠隔操作して放送を続けることができる比較的簡単な構造であり、また、聴取者(リスナー)も電波が到達する距離、すなわちその範囲(距離)・時間内であれば気軽に聴くことができるような利便性があるところでしょうか。

教員と学生が毎週水曜日にミーティングを重ねて開局した『アールラジオ2014』(第6回)は以下の通りの活動結果になりました。報告まで。(一部、ウィキペディア参照)



ラジオで恋する三日間!

東京ローズがラジオで呼びかけてから50余年、名古屋芸術大学でラジオが叫びだしてから6年。ラジオ機からの声は、ずっと強く印象に残るものです。2014年のアールラジオは「アール」ガール・レジェンド・オブ・ザ・ローズ」と題し、「恋愛&ヒーロー」をテーマとします。今回は少人数の学生チームを編成、トークあり、ドラマあり、大喜利あり、完全オリジナル番組をお届けします。三日間だけの超ミニFMと、ネットでの全世界同時配信! 多くのゲストを招聘、つながりを広げていきます。ぜひ、お聴きください!

「アールラジオ」とは

「仮設」-構想領域研究室に学生が集まり、みんなで協力して発音するBUNKAを作ろう!と2009年から始まったラジオプロジェクト。アートや音楽など様々な情報を配信します。名前の由来は、「アール」-という呼び声から。「arty」が反応し、ラジオと結びついたものです。

「仮設」-構想領域研究室とは?

名古屋芸術大学美術学部洋画2(絵画・現代アート)コースが主催。プロジェクトが開かれるときのみ出現し、終わると消滅する研究室です。

アールラジオの聴き方

会場である名古屋芸術大学アート&デザインセンターにてFMラジオ機を88.8MHzにあわせて下さい。会場にてラジオの無料貸出しし、聴き方をご案内します。もしくは、webサイトからUstreamにて聴くことが可能です。入場も、聴くことも無料で楽しみ頂けます。

FMラジオ webサイト
88.8 MHz http://aaartsradio.jpn.org

11/3 (月・祝)



11/4 (火)



11/5 (水)



12 **15 オープニング**
20 **初めてのプロレス第1話** 化石オタクのトニオくんはアンちゃんや大ゲンカ!! アンちゃんや仲直りしたいトニオくんはプロレスの妖精イッキーと一緒にプロレスについて学んでいくよ! 知識がなくても大丈夫!! ドラマ形式でわかりやすく解説! 初心者による初心者ためのプロレス講座だよ!! **FM** へんなうさぎ

40 **ジリタスタジオ生眼** 出演: 鈴木ノリタ(vo ジリタ) 民謡界のニューウェーブバンドジリタによるライブ。

13 **15 ヒュージョン!! 波っ!!!**
A&Dセンター1階で同時企画として展示している「名古屋芸術大学大学院同時代表現研究<洋画>×京都造形芸術大学大学院Pr PROJECTS交流展」企画者の大庭大介氏と出品者を招聘し、交流展について熱く語ります。
ゲスト: 大庭大介 / 竹沢佑真 / 熊谷理莉紗
聞き手: 水口智之

14 **00 愛のしりと劇場1** 愛の言葉で甘〜いしりと。時にしょっぱく、時にビターな物語(?)
ゲスト: 杉浦 光
パーソナリティー: **FM** 片吉渡

30 **似顔絵ヒーロー・エガオー1号**
似顔絵師 野中道宏氏による、ヒーロー・エガオーが「アールラジオ」へやって来るゾ! どんなヒーロー!? 似顔絵ってどう描くの? 正義を守るための生放送!
ゲスト: エガオー

15 **00 朝音アサオト** 窓から差し込む柔らかな光、カーテンから透る澄んだ空、歌うように聞こえる鳥の声、愛おしく響くキッチンの音……幸せな空気に包まれながら、僕は目覚める。憧れの、朝、憧れの、音-アサオト **FM** カブチーノ

15 **10 Ko Yamadaの「声ラジオ」**
言葉は意味を持つ前に声として音にされた。ラジオスターの本人はDJじゃない。声を届ける。放送なのに自分だけに話しかけてくる深夜のラジオのように、濃密で孤独な。だからこそ意味を、語り合う。君と。
パーソナリティー: 山田 亘

16 **00 大手広告代理店勤務 DJの人生サバイバル講座**
ラジオやクラブシーンのDJのほか、イベントプロデューサーや国立・私立の大学で特別に教鞭をとるなど、何かと話題のサラリーマンDJ・竹田氏。昨年リリースのアルバム『LUXWALTZ selected by DJ cartoon』がiTunesダンスチャート初登場して、なんと4位! そんなヒーロー像にパーソナリティー・川崎がやんわりと聞きだすよ。ゲスト: 竹田裕人(DJ cartoon)
聞き手: 川崎真実(アールラジオ専属パーソナリティー)

17 **00 あいちトリエンナーレ2016 徹底解剖! 応援談!**
あいちトリエンナーレ2016について2010年からキュレーターを務めている押戸雅彦氏に直接生放送でインタビュー。この秋、発表されるテーマについてや新たな会場など、先取り情報を皆さんにお届けします! ゲスト: 押戸雅彦
パーソナリティー: 杉浦 光
参加学生: 深美彩香 / 吉田智恵

55 **エンディング(全日 18:00 放送終了)**

12 **15 オープニング**
20 **初めてのプロレス第2話**
FM へんなうさぎ

25 **La花ノたみアワー** 愛知県岡原市のアイドル「La花ノたみ」のトーク!
(あやなん/さーちゃん/しおひ)
聞き手: 村田 仁 / 山田梨紗(Kapsel)

13 **05 朝音アサオト** **FM** カブチーノ
15 **SHOBU STYLE ~工房しようぶの仕事~** 11月7日からA&Dセンターで始まる「SHOBU STYLE ~工房しようぶの仕事~」展の紹介です。鹿屋島にある知的障害者支援センターのしようぶ学園は、ずっと継続した服を作るnui projectや、めちやめちやカッコイイ現代音楽を奏でるotto & arabuなど、楽しくてクリエイティブの高い商品、作品、音楽を生み出しています。しようぶ学園に訪れた人達が、その魅力を秘密をちょっとおすそわけします。出演: 西村正幸 / 高橋優子 / 惣城友美 / 長編藍(CAP4年) / 光内惟奈(CAP4年)
朝音アサオト **FM** カブチーノ

14 **00 愛のしりと劇場2** **FM** 片吉渡
35 **ダリと女子大生のちょお現規 cafe**
シュールレアリスムの代表的な画家「サルバドール・ダリ」が名芸の一角に喫茶店を開きました! ダリさんの喫茶店には恋に悩める美大生が日々お喋りに集まります。リスナーアンケートをもとに、ダリと女子大生がトークを繰り広げる。ダリの謎のようには向きの番組です。 **FM** A
webサイト: <http://aa-dali.jimdofree.com> **Twitter** @aa_dali

15 **00 ゲーム音楽語り** ふだん、何気なく聴いているゲーム音楽。実はゲーム音楽専門のコンサートが開催されているのを知っていますか。コンサートの為に日本中を飛び回る夜月さんがナビゲーターとなり、その魅力についてを語ります。夜月さんのゲーム音楽語り初心者二人が聞き手となり、素朴な疑問を交えて話を展開します。これを聞けば、ゲーム音楽に対する印象が変わるかもしれない!? **FM** A

15 **40 みんなのひみつどうく** 作品制作に必須であるみんなのこだわりの題材についての情報をお送りします。
パーソナリティー: **FM** アイテム

16 **10 笑Time!** 笑いメーターが10%にまで落ち込んだ地球を救うため、大喜利星からやってきたタイムくんと3人のタイムお姉さん。彼らは地球上に笑いを取り戻す事ができるのかな? 脱力系3人+1匹がお送りするちょっとグダグダゆるふわ大喜利!! 時間もやっちゃう挑戦的な番組だよ!
FM へんなうさぎ
Twitter @waratime14

17 **10 ガーヨウバイセン**
10年以上前に卒業した洋画コースかつ演劇部の先輩と後輩が登場。大学生になった現在までの軌跡を業界用語でお話します。放送禁止用語連発?!
出演: 河原崎貴光(写真右) / 岡川卓詩(写真左)

12 **15 恋する古い cafe** 日本最大級の古いカフェ、「名古屋古いカフェ」が名芸にやってきた! 古い顔さんが見る、あなたの恋の行方は…!? 気になる古い番組で…! どのきどきの生放送!! ゲスト: アンジェラ菜穂
FM カブチーノ

55 **0 単位集中講義** 先生とスタジオを教室に、お話しします。ゲストは心理学の木村先生です! 恋愛の話や、恋の相談などしちゃいますよ! ※単位はもらえません
ゲスト: 木村美奈子 **FM** 0たん製作委員会

25 **朝音アサオト** **FM** カブチーノ

30 **ウワサのキチプロ ENTER KEY**
最近、徐々にウワサになって来ている「秘密基地プロジェクト」彼ら一体何者なのか? 番組ではこの「秘密基地プロジェクト」の核心にせまます。
ゲスト: 長田謙一 / 相倉友輔 / 相倉友快
パーソナリティー: 杉浦 光 **FM** アイテム

10 **朝音アサオト** **FM** カブチーノ
25 **ラチオの時間** 浜松エフエム放送 (FM Haru) の佐々木伸介氏をお招きして、ラジオに携わるお仕事の魅力について、お聞きするトーク番組。また、ラジオ番組がつけたい恋愛エピソードや、ラジオの作ったヒーロー(ヒロイン)、ラジオの歴史など、ラジオの文化的魅力についてなど、お話を伺っていきます。ゲスト: 佐々木伸介 (FM Haru)
聞き手: 横山豊隆 / 吉村理華

15 **05 朝音アサオト** **FM** カブチーノ
10 **初めてのプロレス第3話**
FM へんなうさぎ

30 **偉人と名芸生の♡お悩み相談室**
偉人がお悩み聞きます。ブルース、お前もか…!
パーソナリティー: **FM** 片吉渡

00 **AMR(Art Media Room)、アートセンター [Yojo-Han], artist run space i/o、とは何なのか?** 名古屋芸術大学の卒業生が深く運営に関わるアートスペースの面々が激論! それぞれ活動について意見を交わす。

35 **「恋文」~憧れのあの人に、ラブレターを書こう!**
古来、日本における書は「情書」(手紙)が中心だった。万葉集も、その多くが恋の歌。名古屋芸大書道アート部と横山豊隆先生によるフリートーク番組。

10 **オールナイトっぽく名芸** 本音は朝まで話していたい! アールラジオガール、また会う日まで! 涙の音が聴こえる。

A&Dセンターで同時開催中 10/31(金) - 11/5(日) 日曜休館
*名古屋芸術大学大学院 同時代表現研究<洋画>×京都造形芸術大学大学院 Pr PROJECTS 交流展
*AMR(Art Media Room)、アートセンター [Yojo-Han], artist run space i/o、とは何なのか? 展
A&Dセンター次回開催
11/7(金) - 11/19(水) 2014年度企画展
「SHOBU STYLE ~工房しようぶの仕事~」展 日曜休館

後援会補助公開講座実施報告

デザイン学部



常滑フィールド・トリップ 2014 art & design「地域と創造」

やきものの町、常滑で5年以上毎年開催しているアートとデザインのプロジェクトが、昨年10月11日から19日まで開催された。町の中の前工場、アトリエ、ショップ、

カフェ、空き地、空き家など、地元の人にとってはごく普通の風景や場所に設置された作品などを見ながら町を巡るもので、常滑でしか感じえないことを体験してもらった。1年中たくさん観光客が訪れているが、やきものの町として魅力的な風景があるからであろう。しかし町を歩いていても、残艶なことにやきものを作っている光景をみることが殆どない。たくさんあった大きな煙突が数少なくなったことからわかるように、かつての工場の一部はギャラリー、飲食店、ショップなどに転用され残っているが、多くは解体され、新しいマンション、住宅、コンビニ、スーパーそして広い空き地や駐車場となった。かつて丘の上の狭い路地や坂道に沿って工場と住まいが密集した独特の風景があったが、この10年で急速に変わった。

今、観光客向けの目玉になるような魅力ある施設と言えば、かつての伊奈製陶時代に作られたミュージアムくらいで、名所、旧跡もなく、大型の観光施設もなく、お土産店、飲食店も少ない。しかし観光客は何もないが、坂、階段や路地が多く車が入って来ない道を迷いな

がら、ただ散歩を楽しんでいるようだ。映画「20世紀少年」のロケ地に使われたように、かつてどこにもあった木造のレトロな日本の風景が残っていて、そこに自分の身を置くだけで楽しいだろう。



常滑フィールド・トリップに参加する若者も、やって来た。名古屋芸術大学だけでなく愛知県立芸術大学、愛知淑徳大学、名古屋学芸大学などさまざまな大学の学生、卒業生、教職員が来て、彼らもこの町が好きになり、ここに通い始めた。それぞれが気になった場所を見つけ、時には滞在し地元の人が登場するような作品をつくった。また別のグループは帰る時には制作したお土産が付くなどうれしいワークショップを企画した。みちくさ研究所(名芸OB+学生)企画の「お灸」、「移動古物販売?」、また山田(名芸大学院)の「biblio mantica」階段状の本箱を背負って展覧会を巡るガイドツアーなども人々を楽しませた。キャンパスから飛び出して常滑の町で他の大学の学生、卒業生と共に作品制作する、インターカレッジ的な環境も貴重な体験となったようだ。今年も秋に向けて、プロジェクトが進行中である。

デザイン学科 教授 平田哲生

後援会補助公開講座実施報告

人間発達学部

講演テーマ

『これからの質の高い 幼児期の教育を考える』 講師 津金美智子氏

人間発達学部では、2014年11月1日土曜日に、ウィルあいち(愛知県女性総合センター)にて、文部科学省初等中等教育局視学官であり幼稚園教育課教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官の津金美智子氏を講師にお招きして、特別公開講座を開催した。講師からは、2つのことを中心に話があった。

1つ目は、平成27年4月から新しい制度「子ども・子育て支援新制度」について、どのような制度なのか内容の紹介があった。その中で、平成26年4月30日に告示された「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」について、総則・ねらい・内容・配慮事項など豊富な資料を基に説明があった。

2つ目は、「質の高い幼児期の教育」をどのように考えると良いのかについて話があった。用意された具体的な

子どもたちの写真を見ながら、子どもたちが遊びの中で培っているものがどんなものなのかを一緒に考えながら、「質の高い幼児期の教育」について学んだ。



講演会の参加者は、一般の方が168名、学生が243名だった。講演後の意見や感想に「『生きる力の基礎』を育むために、まずは保育者が専門的な能力を使い、子ども一人一人の内面にひそむ芽生えを理解し引き延ばしていくことが大切だと感じた。」(一般)、「子どもたちが何気なく発した言葉に子どもの様々な思い、その法則があるのだと感じた。遊びの中で子どもたちには人とのかわりや物事に対する学びが詰まっているのだと改めて認識することができた。子どもの姿から様々な読み取りが出来るように学んでいきたい。」(学生)など、有意義な学習の場となった。

子ども発達学科 准教授 久保博満

人間発達学部ヨーロッパ教育研修報告

人間発達学部は、2年に1度の計画でヨーロッパの幼児教育の現状とその歴史的遺産・文化を学ぶ研修を「ヨーロッパ教育研修」という名前で実施している。今年も25名の参加希望学生を連れて、教育研修を3月3日から15日にかけて実施した。研修実施は今回で3回目である。従来はドイツにおける森の幼稚園の見学に始まりフレーベルやモンテッソーリ教育の博物館・幼稚園の見学、スイスでシュタイナー関係諸施設の見学をするというコースであったが、今回は、それに加えてイタリアのピストイア市における幼児学校・保育園の見学を行った。日程の都合で、ドイツのモンテッソーリ幼稚園には行けなかったが、それでも従来よりも1日多い日程と成った。

今回我々が最初に向かったのはイタリアのピストイア市である。ピストイア市は、トスカーナ州に位置し、観光で有名なフィレンツェから車で30分程度の場所に有る人口9万人ほどの静かな都市である。街の後方に山並みを見る事が出来、研修時にもスキーマの試合に日本から若い選手たちが来ている事をインフォメーションで聞いた。市街地は、部分的ではあるが残存する古い城壁で囲まれており、歴史的な建物が数多く残っている。中心部分に有る広場では毎週水曜日と土曜日に市が立ち、私たちが訪れた水曜日にも市が行われ、幼児学校への道中その賑わいの中を通った。研修をした幼児学校 (Scuola dell' infanzia) や保育園 (Asilo nido) では、実際に子どもたちが過ごす様子を見る事は出来なかったが、子どもたちが作った多くの作品がテーマ毎に展示されており、説明を受けた其々の創作コンセプトには成るほどと思わせる意図を感じる事が出来、とても質の高い取り組みが行われている事を十分に感じる事が出来た。幼児教育の中に質の高い芸術への基礎的な関心を芽生えさせる事や、子どもたちの身の回りの様々な環境に対する意識の発達を促す遊びの創造など、本学が担える地域での役割を考える上で、とても重要な示唆を与えて頂いたものと感謝している。ピストイアの研修は、本来なら2日目、3日目は子ども様子を見学する事も予定していたのであるが、偶然やって来た低気圧によって園が休みになるというアクシデントが有り、子どもたちとの触れ合いが持てなかった事は残念である。それでも、ピストイア市の教育・保育園関係者の最大のご配慮により、特別な講義を受けたり、園の見学をさせて頂けた事で、私自身は幼児教育の実態や様子を窺い知る事が出来、大変満足している。現地の人でも経験した事が無い様な突風が吹くと、誰が予想したであろうか。旅は自然条件にもこの様に左右されるのであると学生には教える事が出来たが、少し残念さも残るピストイアであった。

次に我々は、空路でフィレンツェ からチューリッヒへと移動し、チューリッヒからはバスでバーゼルへと向かった。バーゼルはドイツ、フランスと国境を接する交通の要であり、ライン川が町中を流れるスイス第3の人口を擁する古都である。ライン川には大型船舶が通航し、ライン川最上流の港を持つ最終遡行地点として交易が行われ、中世には大きな富を得た様である。またバーゼルにはスイス最古の大学であるバーゼル大学が有り、多くの美術館や博物館を要する文化・教育の充実した都市としても知られている。この地で我々は、シュタイナーの様々な施設や学校を見学し、また講演を聞いた。ゲーテアムは、バーゼル近郊のドルナッハに建つシュタイナーが設計した建築物である。シュタイナーの思想であるアントロポゾフィーを具現化した様な構造で、その活動の中核である精神科学自由大学の本部も置かれている。ここでは、ゲーテアムに勤務している浅田氏に通訳をお願いし、アルレスハイムのシュタイナー学校の見学に始まり、徒歩で移動してアルレス



ハイム病院の食堂で昼食を取り、その後音楽療法の講義を受けたり、病院内を見学させて頂いたりした。さらに翌日は、障がい児の学校であるゾンネホッフにおいて、授業が行われているクラスに入って参観させて頂いた。また、障がい者の生活するグループホームの見学も実施した。その後はオイリュトミーの実践、教育部門の責任者による講義等、盛り沢山の内様であった。障がい児の心に直接届く様にとという理由で、電子楽器は使用せず、フルートやギターなどを使用した生演奏であった事や、楽器の持つ振動を音楽療法の中で治療に使う事など興味の尽きない研修であった。幸いにしてバーゼルは終日好天であったので、市内に出かけてもそれ程寒くなく、大聖堂の裏手からライン川を渡し船に乗って渡る事が出来た。学生にとっては、これも楽しい思い出になった事であろう。

第3の目的地はドイツのエアフルトである。エアフルトへは、バーゼルからチューリッヒを経由してフランクフルトまで空路を使い、そこからバスで移動した。途中フランクフルトで昼食を取り、少しだけ旧市街を散歩したのであるが、学生はスイスからドイツに移動して来たのだという事を、建物の違いや街頭で昼間からビールを飲む人々を見て感じたに違いない。エアフルトの街は、チューリンゲンのなだらかな丘陵地帯に位置し、13世紀ころには、既にヨーロッパの交通・交易の拠点として繁栄していたようだ。また文化交流の中心的な役割を果たしていた事でも知られている。街中の散策で私たちも感動を覚えたクレーマー橋は、橋上の両側に商店が立ち並ぶ珍しい構造物である。ここは貴重な文化遺産でもあり、当時の繁栄を想像させる大変美しい場所であった。そのエアフルト市を拠点として、森の幼稚園とフレーベル博物館・フレーベル幼稚園の研修・見学を行った。森の幼稚園の研修時は、とても気温が低くまた風も有り、私にとっては寒さを感じる時間であったが、学生も子どもたちもとても元気に動き回り、寒さを感じさせなかった。子どもたちが自然の中で自然から学ぶ事の多さを感じ取る事が出来た貴重な体験だったと思う。また、フレーベルの恩物の詳細な説明を博物館の館長であるロックシュタイン先生から受けた。大学の授業で学ぶだけではなく本物の道具を見たり、触ったりした事が、学生たちが今後の幼児教育に携わる上に於いて好影響を与えてくれたものと信じている。フレーベル幼稚園では、子どもたちと触れ合う事が出来、学生たちが生来持っている「子ども好き」の部分を満足させたようである。言葉が通じなくとも楽しく親しみの感情は伝わる様子が見て取れる、とても感慨深い時間であった。写真は、森の幼稚園の活動として、寒さの中で学生も参加して朝の集いを行っている様子である。毎日が研修で少々疲れもしたが、とても充実したヨーロッパの旅であった。今後もさらに充実させて実施していく予定であるので、なるべく多くの学生が参加してくれる事を期待したい。

国際交流委員長 教授 石田直章

第25回 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座（報告）

本学生涯学習大学講座は今年で25回目を迎え、東西キャンパス合わせて30講座を開講しました。昨年度まで引き続き実施してきた水彩画、木彫、二胡、オカリナなどの講座に加え、鉛筆デッサン、吹きガラス、声&身体づくりのエクササイズ、イラストレーター、フォトショップなどの新たな講座を開設し、大好評のうちに終了することができました。

また、名古屋学生涯学習推進センター主催の「大学連携講座」においては、「認知症予防プログラム～音楽を用いて～」の講座を開設し、60名の方に受講していただきました。今後も幅広いニーズにお応えできるよう、充実した講座開設に努めてまいります。2015度の講座につきましては、6月中旬頃にご案内する予定です。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

■お問い合わせ

名古屋芸術大学生涯学習センター
TEL：0568-24-0359



▲健康のための声&身体づくり～しなやかな声と元気な身体をつくるトータルエクササイズ～

2014年度 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座

キャンパス	講座コード	講座名	受講者数
東	M-01	二胡を楽しむ ～入門編～	9
	M-02	はじめてのオカリナ ～オカリナで奏でる心の歌～	17
	M-03	みんなでチャレンジ! 楽しいオカリナアンサンブル	10
	M-04	ラテンのリズムで楽しく演奏『Cajon カホン』	10
	M-05	初心者歓迎! 楽譜を解説して楽しくピアノを弾くコツ、お教えします!	11
	M-06	童謡を歌う ～体を動かしてリズムを取ってみよう!～	7
	M-07	健康のための声&身体づくり ～しなやかな声と元気な身体をつくるトータルエクササイズ～	8
	H-01	子育てのあり方を、モンテッソーリ教育からも学んでみよう (0歳～小学校低学年の育ちの手助け)	23
	H-05	今どきのインターネットとWordでオリジナル年賀状作成	10
	西	B-01	美しい水彩画Ⅴ ～爽秋の林、草花、匂を描く～
B-02		ビギナーズチョイス ～素描を楽しむ～	12
B-03		アーティスティック絵画制作	14
B-04		日本画素材の研究(箔、紙、墨、胡粉…など)	10
B-05		らくらく鉛筆デッサン(初心者～上級者まで)	14
B-08		体験! リトグラフ	10
B-09		木彫を楽しむ partXVI	11
B-10		やさしい陶芸講座『作陶初心者でもできる陶芸教室、成形から絵付け焼成まで』	11
B-11		粘土による造形 ～テラコッタ～	10
B-12		体験 ～吹きガラス講座～	10
B-13		ガラス工芸 ～アークセサリーやお皿を作ろう～	10
B-14		やさしい創作折紙	6
D-01		小説家になるための小説の書き方	8
D-02		楽しいピンポン(卓球)	10
D-03		パソコンを使って写真を編集しよう ～フォトショップ入門～	16
D-04		初めての人にも「わかるできる」イラストレーター	9
D-05		織りの表情を楽しむ ～リジット機を使って～	7
D-07		誰でもできる、オリジナルジュエリー講座	6
D-11	子ども造形と形遊び 「和久洋三が提唱する(和久メソッド)創造共育」(幼児)	6	
D-12	子ども造形と形遊び 「和久洋三が提唱する(和久メソッド)創造共育」(小学生)	7	
合計29講座			319



▲今どきのインターネットとWordでオリジナル年賀状作成



▲美しい水彩画Ⅴ ～爽秋の林、草花、匂を描く～



▲美しい水彩画Ⅴ ～爽秋の林、草花、匂を描く～



▲体験 ～吹きガラス講座～



▲誰でもできる、オリジナルジュエリー講座



▲誰でもできる、オリジナルジュエリー講座

名古屋芸術大学音楽学部 第42回卒業演奏会

2015年3月13日(金)午後5時より、三井住友海上しらかわホールにて第42回卒業演奏会が行われました。声楽、ピアノ、弦管打、電子オルガン、作曲の各コースから、選りすぐりの学生が4年間における修練の成果を披露していました。

開場時間である午後4時30分にはすでに長蛇の列ができており、この演奏会への関心の高さがうかがえました。どの演奏も非常に卓越したもので、会場に訪れた観客からは惜しめない拍手が送られていました。演奏委員会委員 准教授 依田嘉明

名古屋芸術大学大学院音楽研究科 第17回修了演奏会

2015年3月4日(水)、5日(木)の2日に渡り、三井住友海上しらかわホールにて、名古屋芸術大学大学院第17回修了演奏会が行われました。今年も昨年と同様、指揮に濱津清仁氏を迎え、コレギウム・アカデミカ(名古屋芸術大学教員を中心に編成されたオーケストラ)との共演を果たしました。今年度は声楽3名(ソプラノ2、バス1)ピアノ4名、フルート3名、クラリネット1名、マリンバ1名、電子オルガン1名、作曲1名と総勢14名が研究成果を発表しましたが、2年間培った高度な技術と表現力豊かな音楽性で、2日共訪れた観客を魅了していました。どの学生も今後の活躍が楽しみです。演奏委員会委員 准教授 依田嘉明



名古屋芸術大学美術学部 第42回卒業制作展

2015年3月3日(火)～3月8日(日)愛知県美術館ギャラリー 美術学部(日本画・洋画・美術文化)名古屋市民ギャラリー 矢田(彫刻・立体造形・ガラス・陶芸・アートクリエイター・版画)にて卒業制作展が開催されました。

流動する社会の価値観の時代を生きる学生たちが、4年間の学びと鍛錬、そして情熱を傾けて制作した作品を展示しました。作品の表現形式は、このような時代を反映し、伝統的表現の可能性をさらに追及したものから抽象表現やインスタレーションに至るまで実に多様です。未来の作家たる自己の実現に研鑽を重ねてきた学生たちにとって、今回の経験は生涯の記憶に残るものになったと思います。卒業制作展委員 教授 田口貴久



名古屋芸術大学大学院美術研究科 第19回修了制作展

名古屋芸術大学大学院修了制作展が名古屋市民ギャラリー矢田において開催されました。美術研究科美術専攻は、絵画研究、造形研究、同時代表現研究、美術文化研究の4領域を備え、学士課程での美術教育を修めたうえで、さらに広い知識と深い思考に導かれた自己の確立と、その表現方法の探究や教育・研究を求める学生を受け入れています。卒業制作展と比較して、修了制作では、作品はより柔軟なものとなり、それぞれの部門での作品はテーマや表現内容は奥行を深めたものとなっています。手堅い伝統的表現を追求する日本画、より時代の変貌に対応する同時代表現研究・洋画研究、造形研究など学生たちの表現様式は多様ですが、震災や国際社会での日本の立場の変化など社会の不安や、それを乗り越えるための、希望への試行錯誤も作品に反映されているようです。



作品の完成度のみならず、真摯な制作態度と柔軟で自由な発想から生まれたこれらの作品は、それぞれの学生の新しい美術作家としての未来を予感させるに十分なものであり、会場に訪れた観客からも称賛の声が聞かれました。

卒業制作展委員 教授 田口貴久

名古屋芸術大学大学院デザイン研究科 修了制作展

名古屋芸術大学大学院デザイン研究科は、5つの研究領域〈ヴィジュアルデザイン〉〈メディアデザイン〉〈ライフスタイルデザイン〉〈3Dデザイン〉〈クラフトデザイン〉を開設し、学士課程でのデザイン教育を修め、尚も高い専門知識と技能の修得を志す学生を国内外から受け入れています。

今年度の修了制作展では、海外からの留学生を含む7名による研究成果が発表されました。先の大震災の教訓とも意識させる三輪消防車両のプロダクトデザイン提案の他、ブランディングデザイン、キャラクターデザイン、タイポグラフィ、SF

X応用による短編映画、都市宣伝用ドキュメンタリー、そして特にクラフトデザイン領域の川崎和美さんの「孵化」と題されたインスタレーションは、巧みに配された種々のオブジェクトによって、見るものに死あるいは生についての意識を呼び覚ますよう意図された興味深い研究として高い評価を得ました。

今から2年前、学生たちは領域を問わず、各々の求める「デザイン観」「デザイン追求のあり方」に対して、未だ[満たされぬ何か]を希求し、本研究科の門を叩きました。そうした思いを完遂するには、この2年間は必ずしも充分な時間ではなかったかも知れませんが、いずれにしろ、彼らは当初自らに課した課題を時に孤独に、時に指導教員や領域を問わず交流する仲間たちとも問題を共有しながら、本展にその答えを提示しました。

本展を終えた学生たちは、おそらくまたさらに高いステージにおける[満たされぬ何か]を求め研究者として、あるいはデザイナーとしてスタートを切って行きます。そうした彼らの成長のプロセスと未来に向けた覚悟を本展にご来場頂いた皆様にも感じて頂けたことと確信しております。

デザイン研究科長代理 萩原 周



「立ち乗りリーニング
三輪の可能性」

石川拓哉(3Dデザイン領域)



「孵化」
川崎和美

(クラフトデザイン領域)

2014年度 ブライトン大学賞

2014年度ブライトン大学賞授与式が、3月6日(金)名古屋東急ホテル4階栄の間において開催しました。今年度は、ブライトン大学からMs. HELEN KENNEDY(美術・デザイン・メディア副学長)とProf MATTHEW CORNFORD(美術・デザイン・メディア学部主任講師)の2名の方が来日され、卒業制作展の行われている愛知県美術館、名古屋市民ギャラリー矢田、西キャンパス内アート&デザインセンターを廻って作品を審査し受賞者を決定されました。

授与式は、竹本学長先生の挨拶に始まりブライトン大学の先生方の挨拶及び全般の公表に続き、表彰状授与及び講評となりました。昨年度からブライトン大学からの意向で各賞の

発表は当日まで未発表のため、会場は独特な雰囲気になりました。発表は、佳作6名・奨励賞2名・優秀賞1名・グランプリ1名の計10名が、佳作からの順番に発表されました。受賞学生達は、いつ名前が読み上げられるか緊張した様子が伝わってきました。まだ名前が呼ばれない学生達は、落ち着かない様子でした。ブライトン大学の先生方は、それぞれの作品に丁寧な講評を述べられ、学生達は聞き漏らさないよう真剣に聞き入っていました。授与式後の祝賀会でも、学生達は積極的にブライトン大学の先生方にアドバイスを受たり、指導して下さった先生方に感謝の言葉を述べている様子も見られました。また今年度もブライトン大学派遣交留学経験の学生の協力のもと順調に進みました。ブライトン大学との交流が両校にとってますます発展することを願います



西キャンパス学生支援課 高橋



グランプリ
田中智子「これも家族」



優秀賞
光内惟奈「彼岸と此岸」

2014年度ブライトン大学賞受賞者

賞	コース	氏名	作品名
グランプリ	デザイン学科 デザイン・マネジメントコース	田中 智子	「これも家族」
優秀賞	美術学科 アートクリエイターコース	光内 惟奈	「彼岸と此岸」
奨励賞	1 デザイン学科 スペース・デザインコース	川田 文香	「木25 ~木が教えてくれること~」
	2 美術学科 アートクリエイターコース	金山 結華	「カドウ式 アトリエ ギャラリー カナヤマ」
佳作	1 デザイン学科 デザイン・マネジメントコース	宇留野悠茄	「手書きレシビ ~あなたの文字ができるまで~」
	2 デザイン学科 テキスタイル・デザインコース	寺島 佑紀	「Colors of my life 1993-2015」
	3 デザイン学科 インダストリアル・デザインコース	澤邊 美駒	「きらきら・りんりん・ころころ」
	4 美術学科 日本画コース	工藤 彩帆	「モチノキ」
	5 美術学科 立体造形コース	阪口 和希	「想起のためのインスタレーション」
	6 美術学科 陶芸コース	浅井 和真	「臨界の川」

親の想い

後半戦のテーマとして願うこと

美術学部 日本画コース 2年 父 佐藤耕太

娘が日本画を学び始めて、もう二年が過ぎようとしています。大学生活4年間の折り返しにあたる今、父親として思うところを書こうと思います。親の願いは、子が親より優れた存在となる事です。二十歳の頃の私を振り返ると、成り行き任せの放蕩生活を送っていました。そのような自分と比較して、今の君は十分私を追い越しています。その事は、この二年で製作した君の絵を見れば一目瞭然に明らかです。私は君の二年間の努力に対して、十分満足しています。かつ人として君を尊敬します。同時に、君が頑張れる環境を与えてくれた全てのものに感謝しています。優秀な教授陣の皆様、友情に厚い学友の皆様、創作を十分なものとす為に備えられた高機能な設備郡の全てに感謝しています。君もこれらのものへの感謝を忘れず、後半戦二年間を精進してもらいたいと願っています。とはいえ、父親としての満足とは裏腹に、君自身には二年間での反省もあるはずで、また、ご指導頂いている方々の目線に立てば、まだまだ精進が足ら

ないと感ずるところも多くあるはずで、そのような機会を謙虚に受け止めて、これから成すべき事をきちんと成し遂げて下さい。

後半戦のテーマとして、私が君に願うのはただ一つです。それは、己の天命を悟ってもらいたいという事です。私が二十歳の頃、貴重な時間を浪費してしまったのは、そのような大事に目を背けてしまったからです。私はその事を後悔していますし、反省もしています。それ故に、今自分が成すべき事は何かを考えながら日々を生きています。しかし、私が自身の天命を成し遂げるには既に時間が足りないかもしれません。愚かしくも恥ずかしい現実があるばかりで、負けを承知で戦いを挑む心境に生きています。なので君には、私を反面教師として、若き日に自分の成すべきを悟って欲しいと願います。天命に悟った結果、もしかしたら画業とは無関係な人生があるかもしれません。しかし、それでも構わないはずで、その時その人生の尊さを、はっきり自覚できるような生き方を選んでください。その方向性さえ間違わなければ、未来の成果がどうであろうと、今描く君の絵に、美しい魂が宿るだろうと信じています。

親が子に望むこと

デザイン学部 デザイン学科 2年 母 余吾めぐみ

今年、無事成人式を迎えた息子。親が子に何を望むか？と言えば、それはやはり子供の「幸せ」であると思います。でも簡単に「幸せ」と言っても何が幸せかは人それぞれで、子供が将来少しでもやりたいことに近づけるようにとか、現実的な話として困らない生活ができるようにという思いで誰でも子育てや教育をしているのではないかと思います。でもそんな気持ちが強すぎて、私は自分の考えを子供に押し付け、親の考えたルールに乗せてしまう経験をしてしまいました。

私は「男の子はまずスポーツ!」という変な固定概念から、小さな頃から息子にはあれこれといろいろなスポーツをやらせてきました。中学3年間もラグビー色で頑張ってきたので、迷うことなくそういう高校へという時、本人から「僕は絵とか勉強できる高校が良いなあ」と言う言葉が出たのですが、その時は思春期の子供のきまぐれと決め

つけ、結局スポーツで高校へ進学させる事に。そして大学を決める段階で息子から「絵とか勉強できる学校に行きたい」と再び言われ、あれ?また同じことを言っている?とそこで初めて自分の考えを押し付けてきた事に気づきました。よくよく考えると、小さい時の息子は何かを描いている時は何時間でもおとなしく楽しそうにしていたのです。この子はスポーツじゃなかった。なぜそんな大切な場面を見落としていたのだろうか?と本当に後悔しましたが、無事、好きな絵に携われるこちらの大学へ進学させていただき、今は少し肩の荷が下りた気分です。ただ息子の成績から考えると、もしかすると息子にとって絵という選択は単にスポーツからの「逃げ」か消去法だったのかもしれませんが。それでも大学の授業の話や、絵の上手な友達の話などを目を輝かせながら話してくれる今の息子を見ると、これが人それぞれの幸せで、今の息子にとっての幸せなのだと思われ、子供から教わりました。これからも少しでも後悔のない人生が送れるよう、私自身も子供と一緒に成長し、見守っていかれたらと思っています。

子の想い

自分の幸せは自分が決める

音楽学部 演奏学科 4年 早坂康二郎

行ってきます。と、声をかけるといつてらっしゃい、気をつけてね。と母の声。ずっと聞いてきて、とうとう大学四年生。高校生時にクラリネットに出会ってからというもの、毎日遅くまで部室で練習した。ただ、クラリネットを続けたいと必死に頑張っ受験した。それなのに、大学一年の秋、いろいろ考えていっぱいいっぱいになってホンの少

し家出をした。いつもはほとんど口を利かない、兄と母が迎えに来てくれた。何だかずいぶん昔のここのように感じる。僕を迎えに来てくれた兄も結婚して、姪が生まれた。

さて、大学生活最後の演奏会も無事に終えた。二歳になる姪も見に来てくれた。ここから勝負だ。すべて自分で選んできた。だから、自分の幸せは自分が決める。素晴らしい恩師と友人に恵まれた大学を巣巣にあたり、つらつらと思いの丈を書いてみた。皆さん、本当にありがとうございます。そして、これからもよろしくお願ひします!

まわりの人に日々感謝

人間発達学部 子ども発達学科 3年 岩尾悠世

僕は今、大学3年生です。あっという間に3年が経ってしまいました。もっと時間を大切に使いばよかったと今ごろになって反省しているところです。

大学のゼミの教授には1年生から大変お世話になり、できが悪い僕にも優しく接してくださり、みんなで教授の家で合宿までさせていただくなど、とてもアットホームな環境の中で熱心にご指導いただき感謝しています。またサークル活動では小学校から続けているバスケットボール部に所属しており、汗を流して楽しい大学生活を送っています。

僕は子どもが好きなので、将来は子どもに携わる仕事につければと考えています。大学では、2年生から保育園実習が始まり、3年生では夏に介護体験と秋に小学校実習、

冬には特別学校の実習と忙しい毎日でした。実際の現場での実習体験は緊張の毎日でしたが、学ぶことの多い日々でした。

小さい子どもからおじいちゃん、おばあちゃんまで様々な人と関わることで、最初はわからないことも多く、戸惑うこともたくさんありましたが、その中で多くのことを学び、いろいろなことを感じとることができました。大学の先生方をはじめ、保育園、小学校の先生方からも、僕の為に、時には厳しく、時には優しくご指導いただき、あたたかさを日々感じることができました。まわりの方が支えてくださったおかげでやりとげることができ、心から感謝しています。

僕は今まで、たくさんの人に支えられてきました。これからは自分がまわりの人を支え、誰かの役にたてるように、毎日がんばっていきたいと思っています。残りの大学生活を悔いのないように過ごしていきたいです。

国際交流レポート 名古屋芸術大学の国際競争力強化へ向けて

2014年9月15日、和田デザイン学部教授、服部亜耶学生支援課職員と上海視覚芸術学院を訪問する機会を得ました。上海視覚芸術学院からは、張同副学長はじめ関係者4名が出席し両大学間の研究・教育交流の推進へ向けて会談を行い、学術交流協定を締結しました。上海視覚芸術学院は中国上海に2005年に開学した芸術系私立大学です。前身は中国の名門大学である?旦大学の芸術系学部で、復旦大学から独立する形で創立しています。キャンパスは上海市郊外の松江地区という学園都市の中にあり、67万㎡の広大な敷地を持ちます。

7つの学部(デザイン学部、ファッションデザイン学部、ニューメディアアート学部、美術学部、パフォーマンスアート学部、文化創造工業マネジメント学部、基礎教育学部)があり、約4000名の学生が在籍しています。また、上海視覚芸術学院では、企業と連携し世界中から招聘されたトップレベルのデザイナーや研究者が、選抜された優秀な学生に直接指導をするという教育システムを導入するなど先進的な取り組みを多く行っており、世界からも注目されています。また、国際芸術デザイン大学連盟の加盟校として、国際的連携を重視しています。

名古屋芸術大学の国際交流センターは、現在28校との間で学術交流協定を結び、展覧会や演奏会、



上海視覚芸術学院の校舎
(ギャラリー、図書館、コンピューター室等が入っている)

学生の交換留学等を通じた交流を行っています。今後は、欧米の大学に加え、アジア圏の大学とも交流を進め、世界における名古屋芸術大学のより一層の存在感強化と、それに連関する形での、正規留学生の受け入れ体制整備の検討等、戦略的に業務を計画していく予定です。今年度、上海視覚芸術学院に加え、従来より交流を進めてきたタイのキングモンクット工科大学ラカバン校との学術交流協定を締結したことはその第一歩です。また、総合芸術大学として4学部合同で推進する国際交流事業の検討など、より本学の強みを活かした活動を推進し、本学の教育充実と国際競争力強化に寄与していきたいと考えています。

国際交流センター長 水内智英



右から上海視覚芸術学院メディアデザイン陳嶸副教授、
インダストリアルデザイン朱曦副教授、
デザイン学部范希嘉副学部長、張同副学長



会談の様子

2014年度 名古屋芸術大学後援会

研修旅行報告

10月18・19日、後援会の研修旅行で箱根湯本温泉へ行ってきました。私にとって今回は3回目の研修旅行でした。大学の学長を始め、子供達がお世話になっている先生方や役員の皆様とご一緒することで、素晴らしい経験を共有でき貴重な思い出を作ることができました。

1日目は、朝早く名古屋を出発し、バスは箱根湯本へと向かいます。まずは沼津へ立ち寄り昼食とお買い物。そして、箱根町港に到着。この旅最初のお楽しみ『箱根海賊船遊覧』ではイギリスの戦艦をモデルとし、エメナルドグリーンの船体が湖面に映える大きな海賊船『バーサ号』に乗り、大涌谷へと続く桃源台駅まで、湖の上でさわやかな風に吹かれながら40分程楽しむ事ができました。海賊船からは、周りの山々の紅葉し始めた景色が楽しめ、港について船を降りれば色美しい船の姿にも感動し思わずシャッターを切っていました。ロープウェイに乗り大涌谷に向かいましたが、ロープウェイの中から後ろを振り返ると先程まで乗っていた海賊船が遠くに浮かび、目の前には銀色に輝いている芦ノ湖が広がって周りの緑に溶け込み、まるで絵画を見ているようでした。



大涌谷は約3000年前に水蒸気爆発をおこした火口で、所々に吹き上がる白い煙を見て地球の歴史を感じました。一つ食べれば七年寿命が延びる

と言われる『黒いタマゴ』も、もちろん食べて来ました。

そしてバスはその日宿泊する温泉宿へと進みます。宿に着くと、まずは温泉で疲れを癒し、そのあとのおいしいお料理や歌も十分に楽しむことができました。

翌日は、この旅2つ目のお楽しみ『箱根彫刻の森美術館』へ向かいます。野外に近現代を代表する彫刻家の名作約120点が常設展示されていて、どの作品も素晴らしかったです。室内展示では、ピカソ館が開設されていて今まで見たことのない作品が数多く展示されており、ピカソの芸術性を深く知ることができました。最後の見学場所はパワースポットとも言われている箱根神社で、多くの人がお参りをされている中で私もいろいろお願い事をしてきました。前日出発した場所にバスが到着するまで、ゲームをしたり、旅行中の楽しかった事を思い起こしては各々で話したりで楽しくすごし、一泊二日の研修旅行は終了します。

10月の行楽シーズン突入で大人気の箱根方面の旅にもかかわらず、運転手さんの判断により渋滞が始まる前にルートの変更などをして時間が有効に使え、予定通りに旅を進められました。皆様のご協力により無事に帰ってこられた事、とても感謝しています。

本当にお世話になり、ありがとうございました。

事業委員長 望月弘子



彫刻の森美術館にて

同窓会総会・卒業生懇親会

〈音楽学部〉

去る2014年11月30日(日)に名古屋芸術大学東キャンパスにおいて、音楽学部同窓会総会と、同窓会及び音楽学部共催の「卒業生懇親会」が開催されました。

総会は2号館中アンサンブル室で行なわれ、山田正文会長(10期声楽卒)を議長に、平成26年度事業報告・決算報告、平成27年度事業計画・予算案などを審議し、いずれも原案どおり承認されました。

総会閉会后、会場を2号館ロビーに移しての「懇親会」は約200名の参加者を迎え、今回も盛会となりました。加藤尚二さん(13期音教卒)の司会によるパーティーは山田会長の挨拶の後、川村大介理事長・竹本義明学長・山田敏裕音楽学部長にご挨拶をいただき、山田会長による乾杯の発声をきっかけにたくさんの歓談の輪ができました。マリンバの手嶋莉子さん、電子オルガンの望月 茜さんによる演奏の他、抽選大会で大いに盛り上がりました。

また今回のゴールデンプライズは、第23回日本クラシック音楽コンクール第1位及びグランプリを受賞された秀平雄二さん(40期ピアノコース)、横浜国際音楽コンクールで第1位の横田彩さんと第3位の横田愛さん姉妹(39期弦管打コース・フルート専攻)に贈られ、返礼演奏が披露されました。

恩師や友人との久しぶりの再会ということもあり、パーティー終了後も話し声は尽きませんでした。



〈美術学部・デザイン学部〉

去る2014年11月16日(日)“HOTEL ルブラ王山”において、第27回美術・デザイン学部同窓会総会・懇親会が開催されました。

総会は芳賀基純副会長(20期洋画卒)が司会と議長に、青木高弘会長の挨拶に始まり、2013年10月1日～2014年9月30日までの事業報告・決算報告及び監査報告が有り承認され、新会長の中島弘敬氏(4期ID卒)が挨拶を行い、新役員の紹介が議長より有り、2014年10月1日～2015年9月30日までの事業計画・予算案が担当者から提案があり、原案どおり承認されました。

会場を移しての懇親会は、加藤雄一郎評議員(28期彫刻卒)と佐竹亜希子評議員(28期日本画卒)が司会を行い、中島会長の挨拶、竹本義明学長ご挨拶をいただき、大島俊三元学長の乾杯を合図に、音楽学部へ依頼したジャズバンドの演奏を聴きながら始まりました。恩師や友人との久しぶりの再会、年を隔てた同窓生との新しい繋がりが生まれ、終了後も話が途切れず、輪の広がりを感じる良い会となりました。

美術学部 美術学科 教授 岩井義尚(5期彫刻卒)



〈人間発達学部〉

去る2014年8月30日(土)に名古屋芸術大学東キャンパスにおいて、人間発達学部同窓会発足式、及び第一回総会が開催されました。

総会は3号館ホールで行われ、渡辺愛理事(1期生)を議長に同窓会の設立の承認、準備委員が提案した同窓会規約、同窓会役員候補を審議していただき、いずれも原案通り承認されました。

発足式では、星野英五人間発達学部長・舟橋文子短期大学部同窓会長・前青木高弘美術デザイン学部同窓会長(前美術デザイン学部同窓会長)にご挨拶をしていただきました。また、学生時代大変お世話になった先生や職員の方にもご出席いただき、人間発達学部同窓会の門出を祝っていただきました。

総会閉会后には、ノイズバンド・中音・リズム体操・ダンス・和太鼓サークルが大いに盛り上げていただきました。今後は、卒業生・在校生が一丸となり、同窓会を盛り上げ、名古屋芸術大学の発展に寄与できるように精進してまいりますので、ご指導、ご支援の程よろしく願いいたします。

人間発達学部 同窓会長 菅野謙一



名古屋芸術大学・大学院後援会会則

- 第1条 本会は名古屋芸術大学・大学院後援会（以下「本会」という）と称し、事務局は名古屋芸術大学内におく。
- 第2条 本会は名古屋芸術大学・大学院の教育方針に基づき、大学諸活動の後援を目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- (1) 学生の課外活動への援助と学生の福利厚生に関する援助。
 - (2) 大学の正常な運営への寄与と、保護者の希望を大学に反映させる活動。
 - (3) その他本会の目的達成に必要と認める事業。
- 第4条 本会は名古屋芸術大学・大学院学生の保護者または、これに代わる者及び役員会が認めた本学卒業生の保護者をもって組織する。
- 第5条 本会に次の役員をおく。
- (1) 会長1名、副会長4名、監事1名、会計監査2名、書記2名、会計1名
- 第6条 本会の役員選出は次の方法による。
- (1) 役員は総会において会員の中から選出する。
 - (2) 書記、会計は役員の中から会長が委嘱する。
 - (3) 役員の任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。
- 第7条 本会役員の任務は次のとおりとする。
- (1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐し、会長が事故ある時はその代理をする。
 - (2) 監事は会務を監査する。
 - (3) 書記、会計は会長に委嘱された会務を行う。
- 第8条 本会の会議は総会、役員会とし、議長はその都度選出する。
- 第9条 定期総会は原則として年1回、5月に会長が招集する。必要と認めた場合は臨時総会を開くことができる。
- 第10条 総会は次の事項を審議・決定する。
- (1) 事業の実施、収支決算及び予算に関すること。
 - (2) 会則の改定、会の解散に関すること。
 - (3) 役員の選出、その他の役員が必要と認めた事項。
- 第11条 総会は出席会員で成立し、議事は出席会員及び出席者に委任した者の過半数をもって議決する。
- 第12条 役員会は出席役員で成立し、会長が招集、議事は出席役員の過半数で議決する。役員会は総会への提案と決定事項の実施、運営にあたる。
- 第13条 本会にその目的を達成するために次の委員会をおく。
- (1) 総務委員会
 - (2) 事業委員会
 - (3) 広報委員会
- 第14条 委員会に、委員長1名、副委員長2名および委員若干名をおく。
- 2 委員長は副会長が兼務し、副委員長及び委員は委員会の同意を得て会長が指名する。
- 第15条 本会に顧問をおくことができる。顧問は役員会の承認により、会長が委嘱し、会長の要請により各会議に参加し意見を述べる。
- 第16条 本会の経費は、会費及び寄付金をもってこれにあてる。会費は入学時16,000円、2年次以降年額10,000円とする。大学院生は年額10,000円とする。
- 第17条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日までとする。
- 第18条 本会則の運営に必要な事項は、役員会の議を経て会長が定める。
- 附則
- 1 本会則は昭和62年6月22日から実施する。
 - 2 本会則は昭和63年6月12日一部改正し実施する。
 - 3 本改正会則は平成10年5月31日から実施する。
 - 4 本改正会則は平成25年5月19日から実施する。
 - 5 本改正会則は平成26年5月18日から実施する。

名古屋芸術大学・大学院後援会の弔意に関する内規

1. 学生が死亡したときは、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金1万円を給付する。
2. 保護者（父・母）が死亡したときも、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金5,000円を給付する。
3. 役員2親等血族および1親等の姻族が死亡した場合は、弔慰金として5,000円を給付する。
4. 弔慰金の給付については、事由の発生から1年以内に後援会事務局に申請されたものに限る。
5. この内規により処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会に事後報告する。

附則1. この内規は、慣例的に実施していたものを平成15年4月1日付けで明文化する。

附則2. この改正内規は、2006年6月1日より施行する。

名古屋芸術大学・大学院後援会顧問の委嘱に関する内規

1. 名古屋芸術大学・大学院の顧問は、原則として、役員会の承認に基づき、会長、副会長経験者の中から会長が委嘱する。
2. 顧問の任期は、会長経験者は15年、副会長経験者は10年とする。
3. この内規に基づき処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会の承認を得るものとする。

附則 この内規は2005年（平成17年）4月1日から適用する。

「名古屋芸大グループ木祖セミナーハウス」をご利用ください

利用目的

名古屋芸大グループ木祖セミナーハウスは、本学院の学生、生徒及び園児並びに教職員等が共同生活において交流を深め、合宿研修、学外授業及び課外活動等を通じて教育の効果を高めるとともに、教職員等及びその関係者の福利厚生等に資することを目的としています。

利用者の範囲

- (1) 本学院の学生、生徒及び園児
- (2) 本学院の教職員(非常勤講師、非常勤職員及び退職者を含む)
- (3) 本学院の卒業(園)生
- (4) (1)～(3)に掲げる利用者の家族
- (5) (1)～(4)に掲げる利用者から紹介された者で、管理責任者が特に利用を認めた者

開設期間

9月の第2土・日曜日及び12月30日の宿泊から1月2日までを除く通年。
※ただし、本学院の都合により、臨時休業する場合があります。

施設利用料

施設利用料(1人1泊 ※食事料金を除く)は次のとおりです。

利用者の範囲	利用料(小学生以下)	その他
① 本学院の園児	500円	※④～⑥の利用者で、2歳以下は無料。
② 本学院の学生・生徒	1,000円	
③ 本学院の教職員	1,500円	※本学院の教職員を問わず、学生等の引率の場合は当該学生と同額。
④ 本学院の卒業(園)生	2,000円(1,000円)	
⑤ ①～④の家族	2,000円(1,000円)	※宿泊を伴わないセミナー室のみの利用 1日:8,000円 / 半日:5,000円
⑥ ①～⑤の紹介(紹介者と同伴利用する場合)	3,000円(1,500円)	
⑦ ①～⑤の紹介(紹介者と同伴利用しない場合)	5,000円(2,500円)	

※上記以外の利用については、お問い合わせください。

食事の予約と料金 ※希望者に対応

セミナーハウスで食事を希望する場合は、利用申込時に予約が必要です。料金は次のとおりです。チェックアウト時に管理人へ支払ってください。

料金(1人分)	夕食(小学生以下 750円)	朝食	昼食(2泊以上が対象)
	1,500円	500円	500円～1,000円※

※昼食の内容については、管理人にお尋ねください。上記料金の範囲で希望に応じます。

【バーベキュー(夕食)】 7月～9月までの限定。(1人分)料金1,800円(小学生以下1,500円)

※設備の関係上、施設利用人数が多い場合は希望に応じられない場合があります。

問い合わせ・申し込み先

下記へ電話で予約をしてください。利用申込の詳細手続きについては、予約時にご案内します。

＜学校法人名古屋自由学院 法人事務局総務部総務課＞

場所:名古屋芸術大学東キャンパス12号館5階 TEL:0568-24-0311 FAX:0568-24-0314

交通アクセス

所在地:〒399-6203 長野県木曾郡木祖村小木曾4793 TEL & FAX:0264-36-2570

JR利用の場合

名古屋駅
中央本線 110分

数原駅
バス 25分

辺見屋敷
徒歩

↓

木祖セミナーハウス

車の場合

名古屋IC
中央道 50分

中津川IC
R19 90分

菅交差点
林道 15分

↓

木祖セミナーハウス



周辺の施設・観光地

- ・こだまの森
テニス、プール、
パターゴルフ、
多目的運動場、
バーベキューハウス、
巨大迷路、溪流釣り等
- ・やぶはら高原スキー場

編集後記

まだまだ冬の寒さが続いております。今年、近隣の小中学校では、インフルエンザが流行しました。学級閉鎖や臨時休校が出るほどでしたが、幸いにも、名芸はインフルエンザが流行したとは聞こえてこず安心しました。マスク、手洗い、うがいと学生一人一人が気をつけていたおかげだと思えます。さて早いもので、三月といえは旅立ちの季節ですね。名芸でもそれぞれの道に希望と期待を胸に新しい道を進んでいかれることと思います。私も三年前、娘の入学と同時に後援会の一役員になりました。何もできない私でも、何か少しでも出来ることをさせていただこうと三年間、今日まで頑張ってきました。役員になり研修旅行、年数回の役員・委員会、大学祭、大学主催のイベント等、この三年間、楽しく学ばせていただき誠にありがとうございました。最後に卒業生の皆さんには大学生生活の思い出をバネに、これからも頑張ってください。健闘を祈ります。

広報委員長 安藤邦恵

- ◆発行 名古屋芸術大学・大学院後援会
〒481-8503
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
TEL.0568-24-0315 FAX.0568-24-0317
- ◆編集 名古屋芸術大学・大学院後援会
広報委員会
- ◆表紙デザイン
本学デザイン学科卒業生 武藤理恵子
- ◆封筒デザイン
本学デザイン学科卒業生 福見光洋
- ◆発行日 2015年(平成27年)3月31日

